



徳島県美術家協会  
美術年報  
2008

# 美術年報

2008

徳島県美術家協会

# 目 次

はじめに .....	徳島県美術家協会長 佐野 比呂志 .....	1	
徳島県美術家協会規約 .....		3	
平成18年度事業報告 .....		4	
役員名簿(平成19・20年度) .....		7	
徳島県美術展開催運営要項 .....		13	
第62回県展記録 .....		17	
第62回県美術展出品・入選等状況 .....		25	
徳島県美術展審査員一覧 .....		26	
第15回放美展記録 .....		30	
<b>各部記録 (平成19年度)</b>			
・日本画部 .....	部会長 西野 和男 .....	36	
・洋画部 .....	部会長 榊田 務 .....	38	
・写真部 .....	部会長 櫛渕 魏 .....	47	
・彫刻部 .....	部会長 松永 勉 .....	52	
・美術工芸部 .....	部会長 山上 馨 .....	56	
・書道部 .....	部会長 上田 溪水 .....	62	
・デザイン部 .....	部会長 福井 章 .....	69	
第62回県美術展審査評 .....		70	
<b>会員名簿</b>			
・日本画部 .....	82	・美術工芸部 .....	90
・洋画部 .....	83	・書道部 .....	92
・写真部 .....	87	・デザイン部 .....	103
・彫刻部 .....	90		
第62回徳島県美術展(県展)公募規定 .....			104
第62回県美術展特別・招待・無鑑査・賛助出品者名 .....			105

あとがき



## はじめに

徳島の芸術の春の祭典、第15回放美展は5月2日（水）から6日（日）までの5日間。改装された県郷土文化会館で開催された。出品点数1057点、展示総数664点、入場者数、4547人、盛大に開催され、無事終了した。将来更に飛躍することを願って止まない。

第62回県美術展は、第1期が10月3日（水）から11日（木）まで、日本画、洋画、写真、彫刻、美術工芸、デザインの6部門、第2期が、13日（土）から21日（日）まで書道部門で、県郷土文化会館で開催された。作品の応募総数は、例年なみの2254点、審査の結果、入賞入選843点が選出された。展示数は、特別出品等賛助出品まで含めて962点となる。県展も62回を重ね、その内容も年々充実、各部門の審査員からもそれぞれ力作が多く、選ぶのに苦勞したと称賛された。作家の方々も充分自信をもたれて、審査員の言葉にもあった様に、展覧会のために作るのではなく、自分の高揚のために続けてほしい。なお出品者の方々が、多くの中央展以上に厳選である県展に臆することなく、挑戦しつづける情熱と真摯な努力には心から敬意と深い感謝を表したい。

本年度特記しておく行事としては、10月27日から9日間にわたって繰り広げられた第22回国民文化祭・とくしま2007（おどる国文祭）は、本県にとって近年有数のビッグイベントだった。全24市町村で音楽や美術、ダンスなど多彩な89事業が催され、延べ約76万人の来場者が文化の祭典を楽しんだ。また徳島経済研究所は国文祭の経済波及効果を107億円と推計、徳島経済にかなりの影響を与えたと言われる。この度の国文祭を機に文化に対する多数の県民の意識を変えていく取り組みも必要だと思う。

各部門の活動や、関係団体、協会員の精進も例年に勝り活発であった。美術家の全国組織に所属する県内作家による日本美術家連盟の四国地区徳島県在住会員展が、阿波銀プラザで開かれ、観覧者も多く好評であった。

個人では4月、橋本正弘展が阿南市文化会館で開かれた。日展会友で、第42回日春展では最高賞の日春賞を受賞、日展・日春展の入選作を中心に32点を展示、50年にわたって日本画と真摯に取り組んできた作家の心情がにじむ展覧会であった。なお橋本さんは、第39回日展の日本画部門で、作品「蔵」が初の特選に輝いた。すばらしい活躍である。ますますの発展を期待してやまない。未来を担う美術家展が東京西新宿の損保ジャパン東郷青児美術館で、2月開催、徳島大学の平木美鶴さんの作品が展示され注目を集めた。6月黒崎志郎展、7月

岡田和泰展、後藤ユリ子展がそれぞれギャラリー喫茶グレイスで開かれた。また乾繁春絵画展がそごう徳島店美術画廊で開催、好評であった。9月には、国民文化祭協賛事業として「徳島70景」福井章イラスト展が阿波銀プラザで開催され、非常に多くの観覧者を集め、阿波の魅力70景に魅了された。敷島のり子ポスター&アート展も大変好評で、国際展の入選作を含む過去15年間のポスターや絵画などが並び、ポスターと絵画の違和感もなく、興味深い会であった。個人の活動の最後になりましたが、清水亟悞さんが、フクロウをモチーフにした作品を収録した画集「梟（ふくろう）・その愛」を出版した。「カンヌ国際榮譽グランプリ2007」の受賞作のほか、フクロウ親子のむつまじい姿を描いた作品が収められた画集となっている。

今年もまた訃報のことは記すことになった。1月31日に、鳴門教育大学名誉教授、村上正典さんが急逝された。美術工芸での中心的作家で県美術展でも賛助出品され、人間的にも温厚で魅力的であった。10月5日に、ニーファニチア代表取締役社長・日本インテリアデザイナー協会名誉会員で、県美術家協会美術工芸委員を長年されていた新居猛さんが亡くなられた。87才で、折たたみいす「ニューチェア-X」を考案、軽量でコンパクト優れた意匠から、74年にニューヨーク近代美術館の永久収蔵品に選ばれた。荒井天鶴さんが3月22日死去された。近代詩文の県内第一人者で、書道結社「徳島書芸院」会長、書道誌「彫琢」を発刊、故・久保幽香さんら多くの後進を育て、徳島に近代詩文書を広めた。県美術展の草創期から運営に尽力し、57年から78年まで審査員も務めた。戦後の徳島書壇をリードし続けられた功績は偉大である。県美術界にとって、大きな存在が次々と消えることは、誠に淋しく残念なことである。心からご冥福をお祈り申し上げます。

最後になりましたが、四国放送（放美展）、徳島新聞社（県美術展）並びに県美術家協会の皆様方に心から感謝するとともに、ますますのご発展をお祈りして、はじめの言葉といたします。

平成 20 年 3 月

徳島県美術家協会会長

佐 野 比呂志

# 徳島県美術家協会規約

昭和23.	9.	12	規約制定
32.	7.	14	新規約制定
33.	4.	29	規約一部改正
42.	4.	23	〃
46.	4.	29	〃
47.	5.	29	〃
49.	8.	22	〃
52.	7.	23	〃
56.	5.	5	〃
58.	6.	5	〃
61.	6.	21	〃
平成4.	6.	27	〃
6.	6.	25	〃
10.	6.	27	〃

## 第1章 総 則

第1条 本会は徳島県美術家協会と称し、事務所を徳島市内におく。

第2条 本会は県内美術家の連絡を緊密にし県美術の育成発展をはかり美術を通じて県文化の向上につとめることを目的とする。

第3条 本会は徳島県に関係のある美術家をもって組織する。会員は次のいずれかの部に属する。

- ①日本画 ②洋画 ③写真 ④彫刻  
⑤美術工芸 ⑥書道 ⑦デザイン

第4条 本会は目的を達成するために次の事業を行う。

- (イ) 展覧会 (ロ) 講習会 (ハ) 講演会  
(ニ) 観光美術の振興 (ホ) その他必要な事業

## 第2章 役員および会員

第5条 本会に次の役員をおく。

- 会 長 副会長（2名）  
理 事（若干名） 監 事（2名）

会長、副会長、監事は総会で選出する。理事は各部会から5名以内推せんする。役員任期は2年として留任をさまたげない。

第6条 本会は顧問、参与および名誉会員を理事会の推せんによりおくことができる。

第7条 会長は会務を総理する。副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。監事はこの会の経理を監査する。

第8条 総会は毎年1回以上会長の招集により開き会計会務の報告、役員を選出、規約の改廃、その他重要事項の審議を行う。

総会は各部から選出した代議員によって構成し、出席代議員の過半数をもって議決する。代議員は30名以内の会員の部にあっては3名、

31名以上の部にあっては、さらに10名毎に1名選出できる。

第9条 理事会は必要に応じ会長が招集し総会の決議による会務および緊急事項を執行する。

## 第3章 部 会

第10条 各部に次の役員をおく。

- 部会長・委員（部会員数の3割以内）  
部監事（2名）

役員は部総会で選出する。役員任期は2年とし留任をさまたげない。

第11条 部総会は毎年1回以上部会長の招集により開き、会計会務の報告、役員を選出その他重要事項の審議を行う。

ただし、部の事情により、部委員会をもって総会にかえることができるものとする。

第12条 委員会は必要に応じ部会長が招集し部会務を執行する。

第13条 部会の決定事項中、各種事業を協会の名において行うときは、理事会の承認を必要とする。

第14条 各部の経費は部会1人当たり、1,750円とし、その他事業収益、寄付金をもってあてる。

## 第4章 経 費

第15条 本会の経費は会費、入会金、事業収益、寄付金その他をもってあてる。

第16条 会費は年額3,500円とし、入会金は1,000円とする。

第17条 会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

### (参 考)

☆昭和23年9月12日 設立総会及び発会式を徳島市役所3階議事場で行う。事務所を徳島新聞社内置く。

☆昭和24年5月3日 事務所を憲法記念館（徳島公園内の県立図書館）内へ移す。

☆昭和25年12月18日 協会バッヂを選定（図案は鬼塚副会長）

☆昭和33年4月29日 今迄常任委員で運営していた協会の組織を部制を設けて、各部会長及び各部委員を選出する。協会運営は各部から選出された理事（3名～5名）によることとする。

☆昭和46年4月29日 6部（日本画・洋画・写真・彫刻・美術工芸・書道）のうえに商業美術（58年度からデザインに改称）が加わり7部組織となる。

# 平成18年度 事業報告

- (1) 理事会 ◇平成18年5月10日(水)  
◇徳島新聞社 会議室  
◇第61回県展運営について  
◇平成18年度総会について  
◇その他
- (2) 第61回県美術展 ◇平成18年10月4日(水)～9日(月・祝)  
日本画・洋画・写真・彫刻・美術工芸・書道・デザイン  
7部門の1,016点展示  
◇アスティとくしま多目的ホール  
◇第61回県展表彰式 平成18年10月9日(月・祝)  
アスティとくしま会議室
- (3) 県展会議 ◇第61回県展運営委員会・事務局員会議  
(18. 4. 11、18. 8. 24)  
◇第62回県展運営委員会・事務局員会議 (19. 1. 23)
- (4) 放美展会議 ◇第15回放美展運営委員会 (18. 12. 6)
- (5) 各部会行事 ◇写真部 撮影会「街再発見もう一度訪ねたい倉敷」  
(18. 6. 11)  
◇デザイン部  
部会展「FACE」 (18. 10. 13～20)  
ホテルクレメントプラザ4F
- (6) 各種後援 ◎第19回長玄書道会展 (18. 4. 1～3)  
◎第3回大貝久義個展 (18. 4. 14～30)  
◎第7回ニッコールクラブ徳島支部写真展 (18. 4. 15～17)  
◎第19回アトリエM作品展 (18. 5. 3～7)  
◎第51回成蹊書道会展 (18. 5. 12～14)  
◎第13回大耽会書作展 (18. 5. 21～22)  
◎徳島アート21 第4回展 (18. 6. 1～4)  
◎第29回「炎」作品展 (18. 6. 2～4)  
◎第18回“療”4人展 (18. 6. 8～12)  
◎第24回双愛会書作展 (18. 6. 9～11)  
◎第27回東光会徳島支部展 (18. 6. 16～18)  
◎第31回東玄書道会展 (18. 6. 16～19)

- ◎第36回直心会書展 (18. 6. 23～25)
- ◎書道企画展「新収蔵 高木聖鶴展～その書美へ」 (18. 7. 1～8. 1)
- ◎書道特別展「小坂奇石展～奇石の書と  
そのコレクション」 (18. 7. 1～8. 1)
- ◎第29回八紅展 (18. 7. 6～9)
- ◎第20回四国大学文学部書道文化学科教員展 (18. 7. 26～8. 1)
- ◎第8回墨友会書展 (18. 7. 28～30)
- ◎第65回世代美術展 (18. 8. 3～6)
- ◎第20回徳島花を写す会写真展 (18. 8. 18～20)
- ◎第30回15人展 (18. 8. 28～31)
- ◎第69回書芸院展 (18. 8. 31～9. 3)
- ◎第46回写楽会写真展 (18. 9. 8～10)
- ◎第3回市場油絵会作品展 (18. 9. 19～23)
- ◎第12回徳島障害者芸術祭 エナジー2006 (18. 9. 20～24)
- ◎第35回徳島雪心会書作展 (18. 9. 22～24)
- ◎第62回青美展 (18. 9. 23～26)
- ◎第51回書協人展 (18. 9. 29～10. 1)
- ◎春琴とその仲間たち「母を書く」 (18. 10. 1～29)
- ◎第10回記念旺美展 (18. 10. 4～10)
- ◎第4回大貝久義個展 (18. 10. 4～22)
- ◎第5回一心会書展 (18. 10. 6～8)
- ◎第2回楽悠会書展 (18. 10. 11～15)
- ◎第4回徳島版画展 (18. 10. 19～22)
- ◎書道企画展「とくしま一字書展 partⅡ」 (18. 10. 21～12. 3)
- ◎書道特別展「偉人の書～幕末から明治へ」 (18. 10. 21～12. 3)
- ◎第18回陸月会書展 (18. 10. 28～30)
- ◎第21回藍美展 (18. 11. 2～5)
- ◎第1回写真同人「光」写真展 (18. 11. 14～19)
- ◎第36回芳藍書道展 (18. 11. 23～26)
- ◎吉野川市書人会作品展 (18. 11. 23～25)
- ◎第12回六書会書展 (18. 11. 24～26)
- ◎第11回尚真書展 (18. 12. 1～3)
- ◎第10回記念せせらぎ書展 (18. 12. 8～10)
- ◎第38回石井美術の会作品展 (18. 12. 8～11)
- ◎第21回正鋒会書展 (18. 12. 9～11)
- ◎第35回歳末チャリティ作品・色紙即売展 (18. 12. 9～11)



- ◎第36回光輪社書作展 (18. 12. 15～17)
- ◎第27回臨池会書展 (18. 12. 16～17)
- ◎第29回泉心書作展 (18. 12. 22～24)
- ◎真野孝彦・佐藤友美ふたり展 (19. 1. 7～26)
- ◎第27回徳島文理大学書道部：墨彩展 (19. 1. 13～14)
- ◎第12回退教協 悠美展 (19. 1. 19～21)
- ◎第38回ナルトびんぼけクラブ写真展 (19. 2. 2～4)
- ◎第3回桂和会書展 (19. 2. 2～4)
- ◎第27回書研社展 (19. 2. 10～12)
- ◎書道特別展「中林梧竹展～鳴鶴・一六とともに～」 (19. 2. 10～3. 18)
- ◎第32回四国大学文学部書道文化学科卒業制作展 (19. 2. 22～28)
- ◎第41回書道研究 清潮書作展 (19. 3. 2～4)
- ◎岩崎英昭写真展「美しい徳島パートⅡ」 (19. 3. 7～12)
- ◎第7回徳島現代墨絵・彩墨画展 (19. 3. 9～11)
- ◎第2回東弥生書作展 (19. 3. 28～4. 1)

# 徳島県美術展開催運営要項

## 第1条 (名称・開催目的)

本展は徳島県美術展「以下(県展)という」と称し、広く県民から個性と創造性豊かな美術作品を公募し、審査員による公開審査により優秀な作品を選び、展示表彰することにより県内美術愛好家の制作意欲の活性化をはかり、一方県民に郷土の優れた美術鑑賞の機会を提供することにより本県の芸術文化の発展振興に寄与することを目的とする。

## 第2条 (主催団体)

県展は徳島県美術家協会と徳島新聞社の共催により開催する。

## 第3条 (開催運営の組織)

県展を開催運営するため、基本事項を審査決定する「県展運営委員会」と、主として準備計画を進める「県展事務局」とを設置する。

運営委員、事務局員の任期は2年とする。但し再任は妨げない。

### 〔県展運営委員会〕

運営委員会のメンバーは、県美術家協会の会長・副会長2名及び各部会から2名、徳島県から1名、徳島新聞社から3名の合計21名でこれを構成する。

運営委員の中から運営委員長1名、運営副委員長2名を選任する。運営委員長は運営委員会を統括し次の業務を行う。

- 1 開催運営の基本事項について審議決定すること。
- 2 審査員の推薦決定に関すること。
- 3 審査方法、表彰に関すること。
- 4 収支予算、決算の承認に関すること。
- 5 その他県展開催に必要なこと。

### 〔県展事務局〕

事務局を徳島市中徳島町2丁目5番地の徳島新聞社企画事業部内に置く。

事務局のメンバーは、県美術家協会各部会から2名、県美術家協会事務局1名、徳島新聞社2名の計17名で構成する。

事務局員の中から事務局長1名を選任し、次の業務を行う。

- 1 出品規定、応募要項、入場券、ポスター、チラシ、図録等の印刷、受付、配布、販売等に関すること。
- 2 会場、会期、審査、搬入、搬出、運営全般の下準備に関すること。
- 3 審査員候補の下交渉、配宿、航空券の手配、審査日時、場所、接遇等に関すること。
- 4 収支予算案の作成に関すること。
- 5 開会式、表彰式の準備に関すること。
- 6 広報PRに関すること。

7 その他県展開催の下準備に関すること。

#### 第4条 (出品部門)

県展の出品部門は、日本画、洋画、写真、彫刻、美術工芸、書道、デザインの7部門とする。

#### 第5条 (展示作品)

県展において展示する作品は、前条に掲げる7部門の中から次の作品とする。

1 一般公募作品の中から主催者が委嘱する審査員の審査を経て入選した作品及び招待、無鑑査、特別出品の作品を展示する。

その他の作品については運営委員会の議を経て展示する。

2 招待、無鑑査、特別出品については次の規定による。

◇次のものを招待とする。

(1) 無鑑査出品を3回以上得たもの。

◇次のものを無鑑査とする。

(1) 特選を連続3回得たもの。

(2) 年間を問わず特選を4回得たもの。

(3) 年間を問わず特選及び準特選を6回得たもの。(特選1回準特選5回、特選2回準特選4回、特選3回準特選3回、準特選6回の場合とする)

(4) 無鑑査出品者にして、特選または準特選を得たもの。

◇次のものを特別出品とする。

(1) 県美術家協会の会長、副会長、顧問、名誉会員、参与、審査員及び各部の会長、顧問、参与。

(2) 各部の会長を永年勤めて実績があり、運営委員会の議を得た方。

(注) ① 招待及び無鑑査出品者が出品しない場合は、運営委員会で認められた事由がない限りその資格を失うものとする。

② 17回展までの奨励賞は準特選と同値とする。

#### 第6条 (審査員)

審査員は県外審査員とする。

審査員の選任は県美術家協会から一定数の人数を推薦し、この中から事務局で選任作業を行い、運営委員会の議を経て決定する。

#### 第7条 (審査)

審査は公開により行う。

#### 第8条 (入選、入賞数)

1 入選、入賞数は作品の出品数の増減により多少変動する必要があるが、原則として次の範囲内に止める。

区 分	特 選	特別賞 (特選の中から1点)	準特選	奨励賞	入 選
日 本 画	2	徳 島 県 知 事 賞	3	3 以 内	規 定 数
洋 画	3	徳 島 県 議 会 議 長 賞	6	5 ♪	♪
写 真	4	徳 島 県 教 育 長 賞	9	8 ♪	♪
彫 刻	1	徳 島 市 長 賞	2	2 ♪	♪
美 術 工 芸	2	徳 島 新 聞 社 長 賞	4	3 ♪	♪
書 道	8	四 国 放 送 社 長 賞	14	13 ♪	♪
デ ザ イ ン	2	徳 島 県 美 術 家 協 会 長 賞	3	3 ♪	♪

※特別賞は各部門とも特選の中から最優秀作品1点に対し贈られるものです。

賞はいずれも同格で毎年部門により1つずつ変更し賞を贈ります。

2 入賞は1人1賞とする。

## 第9条 (表 彰)

県展の入選、入賞者を次の通り表彰する。

- 1 特 選……賞状、賞金7万円
- 2 準特選……賞状、賞金3万円
- 3 奨励賞……賞状、記念品
- 4 入 選……全員に賞状

なお、特選に入賞した作品の中から特に優れた作品について次の特別賞を贈る。

- 1 徳島県知事賞 1名
- 2 徳島県議会議長賞 1名
- 3 徳島県教育委員会教育長賞 1名
- 4 徳島市長賞 1名
- 5 徳島新聞社長賞 1名
- 6 四国放送社長賞 1名
- 7 徳島県美術家協会会長賞 1名

◎特別賞の選考方法については別に定めるものとする。

## 第10条 (収支予算)

県展の開催、運営に要する経費は次のものをあてる。

- 1 出品料
- 2 入場料
- 3 図録売り上げ代金及び広告料
- 4 各種補助金
- 5 その他

県展の支出経費は事務局長の承認を経て行い、必ず証票をとり、毎年12月末に決算を行い、2月に開催する運営委員会に報告し承認を得るものとする。

### 第11条 (出品料・協賛費)

県展の出品料及び協賛費は次の通りとする。

- 1 県美術家協会会員の出品料は、1点目3,500円、2点目から1点につき1,500円とする。
- 2 一般の方の出品料は、1点目4,500円、2点目から1点につき1,500円とする。
- 3 招待、無鑑査、特別出品者及びその他審査を受けない者の協賛費は、1点3,500円とする。

### 第12条 (入場料)

県展の入場料は次の通りとする。

- |   |        |     |      |    |      |
|---|--------|-----|------|----|------|
| 1 | 一般・大学生 | 前売り | 500円 | 当日 | 700円 |
| 2 | 高校生    | 前売り | 250円 | 当日 | 300円 |

### 第13条 (附 則)

本要項の規定は昭和61年9月から実施する。

本要項の改訂、修正は運営委員の3分の2以上の議決を経てこれを行うものとする。

平成4年2月22日 一部改正

平成4年5月16日 一部改正

平成8年5月25日 一部改正

平成11年5月14日 一部改正

平成13年5月30日 一部改正

平成14年9月25日 一部改正

平成17年6月14日 一部改正

平成18年2月15日 一部改正

# 第62回県展記録

会期 (第1期) 平成19年10月3日(水)~11日(木)  
(第2期) 平成19年10月13日(土)~21日(日)  
会場 県郷土文化会館

## 日本画

- 〔審査員〕 能島 和明
- 〔特選〕 石動 智子 (徳島県知事賞)  
岡谷あかね
- 〔準特選〕 平野 真里 宮越 千佳 吉田 満子
- 〔奨励賞〕 鳥山 耀子 秋月ヒサヨ 泉 福美
- 〔特別出品〕 西野 和男
- 〔招待〕 中川 健 岡 英彦 土方るみ子 土井 洋子
- 〔無鑑査〕 反田 卓 坂 容子 中西 芳雄 日浦 猛史
- 〔賛助出品〕 長谷 寿
- 〔入選〕 中村 繁子 綿谷富美子 鳥山 耀子 森本 秀代 福井 撰哉  
松本 恵 中村 りえ 柳田 一子 有持 廣子 鈴木 恵子  
天羽 弘毅 岩脇 恵子 石原 千鶴 平野ひろみ 吉本 悦子  
藤木 史子 大黒 規子 田中 悦子 西村美也子 藤井 吉信  
岸本 好美 眞淵佐紀子 梶浦 千瑞 神田 直子 國尾由美子

## 洋画

- 〔審査員〕 島田 鮎子
- 〔特選〕 三木 洋子 (徳島県議会議長賞)  
横石 和子 野口 暁子
- 〔準特選〕 村上 富子 林 敏雄 南 清子 田中 康子 川人 健司  
西條 明彦
- 〔奨励賞〕 窪田 衣美 大串 直行 玉田 秀子 伊勢 浩章 大西 道夫
- 〔特別出品〕 佐野比呂志 榊田 務

〔招待〕	清水 亘煥	楠瀬 等	露口 敏幸	長尾 弘久		
〔賛助出品〕	岡多 美子 松川 寛	柏木 雅雄 岡田 守	河田 安市 中辻奈美枝	黒崎 志郎	後藤田仁一	
〔入選〕	井沢 忠昭 川田 績 東原 綺子 竹原 良亮 森内 明子 丸関 朋子 野村 雅子 吉田 玲子 阿部 幸子 藤本 晴子 前川フキ子 日岡 富子 三谷ミヤ子 加川由紀子 富士原卓弘 岸本 花子 林 静代 阿部佐代子 岡本 英見 谷口 節 武田 洋子 中村 由春 南城ミツ子 二條 均	梶本美恵子 山田 智千 大塚 政孜 三谷多美子 福良 哲子 中島 洋子 関 美喜子 西川 敬子 山村ひろ子 近藤 克子 藤崎 恭子 富浦 道子 伊良原貞子 吉村 佳己 答島 久子 西川 照美 尾崎 隆幸 細川 禮子 吉村 朋恵 井住香代子 鈴木 敬子 住友 義彦 杉本 祥子 黒上 涼子	笹田 義宏 三宅 勝一 野上 恵子 松下 総子 大久保由子 仁木 英子 奈須 善彦 青木 幸子 島上 二郎 阿部 笑子 梅津美砂代 瀧川 勝雄 端野 育代 白草 由子 三好 初子 河本多恵子 米津 良子 山内 雅文 唐渡 覚 浅野さおり 馬淵 尚子 真鍋たえ子 川上 晴美	島村 英之 板東 徹 増田 政春 山口トシ子 西川 周三 秦 克之 細川 遥 宮田 京子 宇高 桂子 森 幸子 中村 恵一 浅山 久子 北 美智子 和田 弘彰 佐藤 敬子 和田 寿子 越久 高照 武市 光代 松浦 英子 高田 悠希 藤井 博之 松尾 実 大西 文代	中山 律子 岡本 夏奈 喜多 直彦 志摩 政照 佐藤 友美 日野 邦恵 藤井 文明 脇 裕子 姫田 正義 浦川 起世 小浜 敏也 富田 君子 島田美奈子 山口 明美 田中シゲミ 木下 和江 犬伏美智子 関 政明 堀江 幸子 割石 雄三 岡田 典子 手塚 充子 山岡 沙織	

## 写真

〔審査員〕 英 伸三

〔特選〕 松田みゆき (徳島県教育委員会教育長賞)  
山田 勝二 清水 宗保 野口 佳一

〔準特選〕 久保 英樹 平野 史子 堀口 幸男 川眞田慶治 四宮 正恵

	梅本 貞範	渡邊 信二	矢部 弘子	川口 進		
〔奨励賞〕	大西 啓子 笠原 英俊	志摩 育美 富岡佳代子	吉村 敏嗣 一宮 康人	根ヶ山 治	森住 博	
〔特別出品〕	西條 征二	櫛渕 魏				
〔招待〕	増田 清次 三好 和義 前浦 芳久 中野 建吉 船越 正文	井上 光雄 上野 照文 荒井 賢治 井藤 光章	木田 英之 森 賢一 林 敏彦 増田 寿	勝西 雅夫 橋本 圭祐 多田 晴美 柳本 正	笹田 敏雄 安長 剛 古井 謙吉 大和 健司	
〔無鑑査〕	堀渕 完治	関口つとむ	岩崎 英昭	中川 定典	佐治 孝	
〔入選〕	櫛渕 紳哉 多川 静守 松田 昇 河田 清 新居 修 宮崎 敏晴 森 光 一宮 由子 矢野 志江 武田 吉子 土橋 成行 埴淵 節子 野口 道子 米塚 稔 辻 義徳 山本 雅敏 辻 絹子 廣野美知子 武地 雅 福井 純子 山田 卓 岸田 立身 氏師 敏晴 中山 良男	宮本 幸治 野藤 敏美 田中 義孝 中原 定雄 山下 助信 田中 利彦 横手 章子 小林 芳子 米沢 正博 岡久 吉徳 藤田 羔爾 下山 久男 増谷 好子 柳川 信子 森住 孝義 中川 健次 姫野 博司 佐野 和史 辺見 博子 加藤 千明 稲井 芳男 神野 太三 上杉 大一 真田 幸隆	井上 翔 住友 登 大津 勝治 石本 隆二 根ヶ山美江 守中 和代 中尾 一元 谷本 和子 秋野 昌子 山口 正明 内藤クニエ 林 広司 竹内 好文 西野 倫子 川西 明雄 榎本 悟 板東 律雄 宮本 文男 橋本 博美 村雲 清郷 岡村 清 宮前 稔 田村 泰弘 佐々木勝正	島 廣幸 佐野 辰夫 国見 良幸 櫛谷 文次 横山 勤一 姫田 慎治 今出 弘 林 好一 三木 啓治 堤 信寿 内藤 晃 棚橋 仁志 小笠原弘明 播 博文 森内 昭男 多田 進 森崎 敦子 中野 久世 賀川 泰広 藤家 昇 糸谷 元宏 佐藤 義雄 阿部 啓三 笠井 房子	勝瀬 彪 富永 幸子 小原 治 佐倉 幹雄 南山 葉子 山橋 良治 今出 光俊 久保 祐一 高橋 弘 四宮 清文 石原 昭 郡 利明 原田 章一 池添 秀信 佐々木敏幸 高野 作男 石川 徹雄 谷 嘉明 岸田 知久 岸田 義市 吉本 保夫 笠井 孝純 阿部千代恵 大塚 尚	



森住 啓	小川 剛	大西 忠	溝渕 寛治	蔭山 英和
井上 憲治	伊達 照子	谷中美智子	多田 康文	

## 彫 刻

〔審査員〕	中垣 克久				
〔特 選〕	上月 佳代 (徳島市長賞)				
〔準特選〕	武田亜希子	高丸 公相			
〔奨励賞〕	木村 大志	三原 敏文			
〔特別出品〕	河崎 良行				
〔招待〕	佐藤 隆	井下 俊作	鎌田 邦宏	松永 勉	
〔無鑑査〕	居上 真人				
〔賛助出品〕	長岡 強				
〔入 選〕	山橋大二郎	二宮 治夫	加藤 由恵	東 光司	小田太一郎
	安藝 淳二	米田 陽一	辻 清彦	大西 葵	増田 有美

## 美術工芸

〔審査員〕	増村紀一郎				
〔特 選〕	吉田 祐子 (徳島新聞社長賞)				
	森 明治				
〔準特選〕	小西 幸枝	藤井 哲信	玉木 隆子	丸居 哲雄	
〔奨励賞〕	村上 綾子	佐治 孝	谷口 武平		
〔特別出品〕	山上 馨				
〔招待〕	高橋 勇	七條猪三郎	多智花佐代子	松下 雄介	松下 慶一
	森 賢一	橘 恵	犬伏 絢		
〔無鑑査〕	斉藤 和彦				
〔賛助出品〕	中川 存				
〔入 選〕	吉田 陽子	野村 裕子	石川多美子	平田志保子	大貝 貞雄

南 泰樹	越 由子	前野 亮治	萬藤 武徳	南 郁代
西田 善彦	長尾 敏子	大貝 寿子	矢野 良子	椎野 寿子
槇塚 榮一	仁田 和子	椎野 隆子	高瀬 裕司	藤井 雅代
横井嘉世恵	藤井 哲信	柏木マスヨ	横井 直美	佐藤 康子
久米 梅子	木田サチコ	高松 正彦	家形笑美子	藤川 恭子
曾江 司	相原 良平	谷口 治	岡本亀代子	賀川マチ子
鈴江 兼子	阿部 巍	石井 春夫	吉野 由紀	綾野 昌子
妹尾 文子	岡部 育子	前田 道子	国井 秋子	四十宮年代
井内 晃俊	和佐 豊子	平尾 静子	垣内耕太郎	里見 正威
小川 光	中山 公司	澤内 和代	梶原 浩二	加藤 和美
平瀬 進也	吉田 眞弓	隅田 良佑	山下 久美	小橋美知子
新居久美子	板東 健三	阿部 徳子	岡田 邦子	亀井 良子
板東 啓子	福本美智代	内藤 久子	八木 智江	竹岡由美子
大内 敏男	吉田 晃子	鈴江 正子	大西 君代	手塚 健一
大木 真澄	中西 達也	河原綾子(他二人)	吉田 敏明	橋本 正子
阿部真由美	北野 宜章	青木 壽美	阪井 和代	清水由利子
村川 栄一	森 克江	吉田 和子	竹内寿和子	太田 裕子
西尾 初美	島崎 明美	宮本 薫	田村 純子	田中木美子
山本 由実	中川 英子	林 恵子	小笠原瑞穂	加藤 伴江
田村栄一郎	清田美和子	近藤佐起江	山田真由美	永山昭一郎
田村 佳代	吉田 陽子	久保 祐子	鳥井 明子	石田 節子
岡谷あかね	阿部 俊江			

## 書 道

〔審査員〕	榎本 樹邨	東山 一郎	辻元 大雲			
〔特 選〕	高瀬 善郎 (四国放送社長賞)					
	稲井 由香	河見 忠信	米澤 司子	真鍋千代子	宮守 とみ	
	井内 光子	田淵 元博				
〔準特選〕	川村 真澄	大下 富江	豊浦 佳子	真鍋 洋子	戸出 浩子	
	吉田 幸代	井上 まり	廣瀬 久代	福島 由子	阿部 博子	
	芦谷 后子	岩崎 麻美	遠藤玻都恵	梶川 佳奈		
〔奨励賞〕	中村 美子	佐野 瑤実	多田 美咲	谷本 洋子	真鍋 一美	
	背川 章子	崎野亜希子	宮西 恵子	渡邊 亜希	朝三 和子	
	大井多鶴子	岸 緑	中川 博雅			

〔特別出品〕	新居 藍州	上田 溪水							
〔招待〕	宮井 青雨	長原 皋聖	西 南龍	成尾 莊秀	原田 霄月				
	芝原 醒鶴	前川 古舟	清水 桂月	美馬幾美賀	春藤 大耿				
	中谷 史子	長谷 美峰	勝瀬 景流	川上 虹泉	三間 好鶯				
	近藤 静苑	日下 溪翠	岡島 順子	荒井 彭仙	竹田 和代				
	山口 華城	藤若 美風	武市 鳴雲	中尾 勝子	佐藤 真				
	富久 鳴泉	永松 春苑	島田 小園	坂本 霄風	浜 佳香				
	隅田 英二	松本 清香	多田 清芳	玉城 乾香	薄田 玲泉				
	能仁 華瑤	高田 青蓮	三浦富美代	宇山 泰風	亀石 文苑				

〔贊助出品〕 東 南光

〔遺作〕 荒井 天鶴

〔入選〕

漢字の部

河野久美子	永岡ツタエ	吉平 順子	石井 瞳	蔀 品子
富崎かおる	中川 恵	平野 実	椎野 薫	東條 裕子
川口 剛	浅川 陽子	土井 和也	谷 令子	丸岡 由美
東野 恵巳	福家 佳余	藤永 真里	中村 絢子	中川恵美子
桑田 次雄	折野 茂幸	笠原 笑子	奥田 文子	陶久 房枝
大野シゲ子	村部 幸子	四宮 恭子	三崎美佐代	久積富美子
岡本美津代	大和 公代	山川 知美	猪尾 直治	米倉由加里
佐藤真由美	熊代 厚子	矢部 知子	佐々 京子	谷 弘美
美馬 潤子	鳩成 広美	後藤 紀代	西岡田さつき	沖田 章代
青木 博美	宇山 和治	川辺 光俊	森 キクミ	久米川理伯
松永 浩子	丸岡 茂夫	鈴木 正友	寺内 金子	西野 道夫
乾 温史	洲崎 忠雄	武市めぐみ	米木由美子	田上 洋子
片山 芳明	渡部 俊子	服部 弘子	八木 澄江	駒田 澄子
大本 由紀子	河野多美子	春藤 秀子	稲井 知子	大平美代子
宮脇 郷子	川人 明香	高畑 明美	前田 麻子	吉田 有子
笠松八重子	粟飯原優子	若木 恭子	秦 知美	山下弥栄子
弘田 敏章	森本真由美	野口 有香	坪内サチ子	荒川 佳子
有井 清	辻 尚子	岡部ひとみ	遠藤 清子	久保 朝子
笠井 仁美	恵美 恵子	林 みゆき	野村千恵子	村井 香織
田中 偉嗣	恵内 貞子	萩原 陽子	岡 弘子	漆原 実沙
小林 忠志	伊勢 浩美	村澤健太郎	細川 美佳	忠津 安子
勝浦 美和	三條 宣隆	東川 真美	河野 雅美	由宇 典代

平田 真紀	林 智也	酒井やすえ	山城美三子	須藤 智子
山地 靖子	原 貞子	植木 亜美	福永久美子	稲木 裕美
後藤 佳美	高尾 泉	安原 照代	森 久子	片山 保
扶川 治子	辻 光雄	中田 有美		

### 篆刻の部

吉田 充	横田 雅夫	來田 節夫	蓑毛 真琴	西堀 柳亀
植上富美子	森本 明子	大西 諭	泓 慶子	住友 通瑛
田淵 勲	岡部 武見	上田 忠敬	射場 博子	丸西真菜美
井向香名枝	石川 翔子	兼久 幸子	乗島 栄子	遠藤恵美子

### 仮名の部

宮崎 早苗	大西 順子	野口 和子	柏原 善子	関 藤子
沖野 道代	一ツ松真弓	松本由希子	井上 彰夫	藤中 英子
楠瀬 恭子	山本 美幸	吉田 幸子	天羽 常嘉	上田 久恵
繁崎登美子	福村喜代子	新納 房子	湊 泰子	赤川久美子
倉本 節子	森 弥生	遠藤 孝子	住友 裕子	森 裕美子
竹中 敏恵	皆谷 露子	東 弥生	細川真理子	村田登志子
永岡ツタエ	藤原 育代	瀧倉 理恵	鈴江美音子	河野 静江
佐野チヨミ	中谷つや子	金子 博明	小西 千恵	加藤カツ子
内田 麻紀	藤井三樹子	新子 町子	畠山 政子	藤田 健二
脇坂 優	大滝富美枝	中野 幸代	加村喜美子	笠原小夜子
伊丹 志織	井口 ひろ	田岡佐記子	原田 葉子	高木美賀子
大塩 幹子	吉田 好孝	藤本満里子	菖蒲 和代	山橋不二子
久積希実子	笹田 真里	田村富士子	山本 恵子	平尾 卓美
賛田美恵子	井上小百合	井上 智世	南本 智子	古谷 和代
平野 俊子	西岡 咲子	山口寿満子	中筋 良江	

### 近代詩文の部

和田 悦代	青木寿恵子	石井 益美	糸田川純子	岩本 雅三
上原三千代	遠藤 禎子	大石 正	大島 清子	岡川 泰江
岡崎 啓子	大西 英子	大西千鶴子	樫山 正代	川下小夜子
川端喜美子	川又 敏香	木内 典代	桐生 弘美	栗林 和江
栗山 弘子	桑村 清	幸田 康代	児玉 幸子	坂尾 俊一
定本 宏美	佐藤 恵子	里村 典子	庄野ゆかり	武田 淳子
谷本 清子	玉城 若菜	出原とし子	鳥井佐知子	中野 美恵

長尾由美子	長原 七与	仁木しもえ	野口 晴世	野田 満代
野田 洋子	橋本 君代	春川 登	引地 美貴	平岡 郁子
福山 啓子	藤本 優子	本浄 貴子	松岡 文子	丸岡 良子
丸田 三恵	森浦 和子	森本知世子	山崎ひとみ	吉田さい子
山本 陽子	和田 祥功	生野 久美	上田由美子	三村 光子
森岡嗣雅子	富永美知子	吉田佐知子	米田 有沙	大津 明美
森本 陽子	木田 史子	山口 文子		

### 前 衛 の 部

枅富 年子	阿部 公恵	大胡恵里香	山本 恵美	山崎 香
麻植塚由佳	三浦 みや	大胡 真美	井内 梨加	根東 愛
鎌野 裕子	石川 詩乃	内田 亜美	松本真理子	荒井 和子
柏尾美恵子	永井 厚子	西岡 珠子	林 浩一	村田 泰輝
島尾 明良	中川 富量	梶芳 育代	義富 博正	佐藤由紀代
安宅 洋子	中川 貴俊	中峰 満世		

## デザイン

〔審査員〕 三木 健

〔特 選〕 東 早紀 (徳島県美術家協会会長賞)  
天羽 宏美

〔準特選〕 佐伯 奏美 斎藤志津子 四宮 光理

〔奨励賞〕 岩佐新太郎 四十宮隆志 西林 良枝

〔特別出品〕 福井 章 坂本三千一

〔招待〕 斎藤 繁次 坂野美恵子

〔無鑑査〕 敷島のり子 沢口 功

〔入 選〕 小笠原瑞穂 須藤 政代 林 敏雄 内容 愛 近清さよこ  
東谷 蕉② 工藤 遥 北島 豊嗣 西山 稔江② 友川 理沙  
矢木 友樹 西林 良枝 天羽 宏美 千崎 太郎 三木由佳里  
香西 俊明 四十宮隆志③ 森本 拓磨 西村 直美 松井 邦明  
内村 瞳子 西條 明彦 安藤 綾沙 森本 菜暁 島 美里  
佐伯 奏美② 福島 拓馬

## 第62回県美術展出品・入選等状況

区分		部門							計
		日本画	洋画	写真	彫刻	美術工芸	書道	デザイン	
出品数		51	300	793	25	203	782	100	2,254
人数		48	217	243	22	148	522	84	1,284
入選	率	64.7%	43.7%	18.9%	60.0%	59.6%	45.1%	40.0%	37.4%
	特別賞	1	1	1	1	1	1	1	7
	特選	2	3	4	1	2	8	2	22
	準特選	3	6	9	2	4	14	3	41
	奨励賞	3	5	8	2	3	13	3	37
	入選	25	117	129	10	112	318	32	743
	計	33	131	150	15	121	353	40	843
落選	率	35.3%	56.3%	81.1%	40.0%	40.4%	54.9%	60.0%	62.6%
	落選	18	169	643	10	82	429	60	1,411
招待等	特別出品	1	2	2	1	1	2	2	11
	招待	4	4	21	4	8	40	2	83
	無鑑査	4	0	5	1	1	0	2	13
	賛助出品	1	8	0	1	1	1	0	12
	計	10	14	28	7	11	43	6	119
展示数		43	145	178	22	132	396	46	962

◎特別賞は特選の内数である。

# 德 島 県 美 術

部門 回数	日 本 画	洋 画	写 真	彫 塑
1	委 員	[野 間 仁 根 家 永 騏 三 郎]	委 員	
2	大 栗 旌 折	野 間 仁 根	上 田 備 山	[太 田 三 郎 坂 東 文 夫]
3	委 員	伊 原 宇 三 郎	同 上	[太 田 三 郎 坂 東 文 夫]
4	委 員	須 田 国 太 郎	同 上	同 上
5	上 村 松 篁	田 村 孝 之 介	小 野 由 行	[太 田 三 郎 坂 東 文 夫]
6	西 山 英 雄	伊 藤 繼 郎	川 崎 亀 太 郎	同 上
7	山 口 華 楊	田 川 勤 次	棚 橋 紫 水	新 田 藤 太 郎
8	池 田 遙 村	須 田 剋 太	同 上	[太 田 三 郎 坂 東 文 夫]
9	水 田 竹 圃	小 出 卓 二	同 上	同 上
10	管 楯 彦	[鈴 木 信 太 郎 野 間 仁 根]	同 上	同 上
11	奥 村 厚 一	井 上 長 三 郎	岩 宮 武 二	同 上
12	浜 田 観	福 沢 一 郎	棚 橋 紫 水	同 上
13	小 松 均	藤 井 令 太 郎	同 上	[辻 東 晋 堂 坂 東 文 夫]
14	秋 野 不 矩	針 生 一 郎	岩 宮 武 二	針 生 一 郎
15	奥 村 厚 一	向 井 潤 吉	棚 橋 紫 水	管 沼 五 郎
16	同 上	吉 原 治 良	岩 宮 武 二	柳 原 義 達
17	松 尾 冬 青	中 谷 泰	同 上	向 井 良 吉
18	矢 野 鉄 山	池 島 勘 治 郎	同 上	安 田 周 三 郎
19	中 村 貞 以	森 芳 雄	堀 内 初 太 郎	堀 内 正 和
20	曲 子 光 雄	桂 ユ キ 子	岩 宮 武 二	植 木 茂
21	沢 野 文 臣	伊 谷 賢 蔵	同 上	佐 藤 忠 良
22	堂 本 阿 岐 羅	村 井 正 誠	同 上	辻 晋 堂
23	松 岡 政 信	山 下 大 五 郎	同 上	井 上 武 吉
24	山 崎 忠 明	大 沢 昌 助	棚 橋 紫 水	菊 池 一 雄
25	奥 村 厚 一	大 斉 藤 真 成	同 上	原 武 典
26	梶 喜 一	島 村 三 七 雄	棚 橋 紫 水	掛 井 五 郎

# 展 審 査 員 一 覧

美術工芸	書 道	デ ザ イ ン
鬼塚信之	委 員	
同 上	田 中 白 村	
同 上	炭 山 南 木	
同 上	炭山南木・織田子青	
同 上	手 島 右 卿	
(鬼塚信之 新田藤太郎)	同 上	
鬼塚信之	小 坂 奇 石	
明石朴景	辻 本 史 邑	
会田裕宣	織田子青(漢)・出口草露(仮)	
鴨 政 雄	松 井 恕 流	
近 藤 悠 三	荒井天鶴・後藤泰秀・後藤田香石 田中双鶴・田中栢翠・富永眉峰	
平 松 宏 春	同 上	
同 上	荒井天鶴・後藤泰秀・後藤田香石 田中双鶴・田中栢翠 荒井天鶴・後藤泰秀・後藤田香石 田中双鶴・田中栢翠・富永眉峰	
大 西 忠 夫	同 上	
明石朴景	同 上	
平 松 宏 明	同 上	
大 西 忠 夫	同 上	
鴨 政 雄	同 上	
平 松 宏 春	同 上	
内 田 邦 夫	同 上	
山 脇 洋 二	同 上	
槻 尾 宗 一	同 上	
山 脇 洋 二	荒井天鶴・後藤泰秀・田中双鶴 田中栢翠・富永眉峰	
藤 本 能 道	同 上	
三 井 安 蘇 夫	同 上	
		金 野 弘



部門 回数	日 本 画	洋 画	写 真	彫 刻 (46回まで彫塑)
27	上原卓	高田誠	伊藤知己	松村外次郎
28	黒光茂樹	中間冊夫	岩宮武二	小島広志
29	松岡政信	中島田中章	同同上	小保田春彦
30	黒光茂樹	田中忠	同同上	篠崎明雄
31	河合健二	田中雄	同同上	江口週
32	長谷川青澄	山口長男	〔岩宮武二〕 〔伊藤宮藤知〕	一色邦彦
33	松岡政信	吉井忠	〔岩宮山宮〕 〔秋岩宮〕	柳原義達
34	山岸純	小西保文	岩宮武二	清水九兵衛
35	樋笠数慶	荻太郎	同同上	桜井祐一
36	坂口麻沙	吉井淳二	同同上	土谷武
37	下田義寛	野見山暁	同同上	山本正道
38	同上	須田真	高田誠三	清水九兵衛
39	同上	須藤真	同同上	清城孝一郎
40	下保昭	津高和	〔岩宮武二〕 〔高田誠〕	清水良治
41	橋田二朗	小松崎邦雄	奈良原宮木	淀井津一
42	松本哲男	国領山光	岩三	木橋本
43	山岸純	利根穴	高三	山崎谷
44	平福井敏	赤桜大	同同上	土峯田
45	福岩沢爽	大森本	同同上	土峯田
46	岩田重一	大谷本	同同上	土峯田
47	穂田俊	大沼重	立木義浩	小島敏
48	田淵融	大馬越	立杵	小建綿
49	中下藤	三馬越	奈良原	古綿引
50	下田藤	三馬越	同同上	古綿引
51	工藤早	中松根	同同上	古綿引
52	那波多目功	松藤樹	同同上	古綿引
53	那須勝	藤田吉	同同上	古綿引
54	内田あぐり	奥谷香	同同上	古綿引
55	松尾敏	佐々木	大石	古綿引
56	山崎隆	大山津	同同上	古綿引
57	岩本和	山本英	同同上	古綿引
58	大矢紀	福中瑞	同同上	古綿引
59	竹内浩	中絹忠	同同上	古綿引
60	小嶋悠	絹谷幸	同同上	古綿引
61	小宮廻	山本文	同同上	古綿引
62	能島和	島田	同同上	古綿引

美術工芸	書道	デザイン (37回まで商業美術)
六角 颯 雄	荒井天鶴・後藤泰秀・田中双鶴・田中栢翠 富永眉峰	大智 浩
鈴木 貫 爾	同 上	早川 良雄
田村 耕 一	同 上	原 弘
山脇 洋 二	同 上	田中 一光
浅野 陽	同 上	奥野 英雄
前田 泰 次	同 上	灘本 唯人
山脇 洋 二	同 上	大高 猛
中村 光 哉	荒井天鶴・久保幽香・讃岐泰泉・田中双鶴 田中栢翠・富永眉峰・新居藍州	福田 繁雄
山脇 洋 二	同 上	福永 井正
田村 耕 一	荒井天鶴・田中双鶴・田中栢翠・富永眉峰 西岡楚峰	山城 隆一
同 上	同 上	粟津 潔
山下 恒 雄	荒井天鶴・田中双鶴・田中栢翠・富永眉峰	田中友一 光典
同 上	同 上	長 啓
浅野 陽	荒井天鶴・久保幽香・讃岐泰泉・春藤大耿 高原清泉・田中双鶴・田中栢翠・長江清幽 新居藍州・西岡楚峰	亀倉 雄策
中村 光 哉	明石春浦・坪井正庵	伊藤 憲治
浅野 陽	桜井琴風・黒野清宇	サイトウ・マコト
山下 恒 雄	大岡皓崖・山田伍雲・西野象山	佐藤 晃一
三浦 小平 二	花田峰堂・小山素洞・東地滄厓	河北 秀也
松永 勲	浅見綿龍・森本妙子・加藤大碩	河松 永真
山下 恒 雄	近藤撰南・東山一郎・中野北溟	浅葉 克己
島田 文 雄	谷村寮齋・植村和堂・太田義久	勝井 三雄
大西 長 利	安原臯雲・池田桂鳳・金子卓義	五十嵐 威暢
山下 恒 雄	鈴木桐華・西本支星・金子聰松	青葉 益輝
島田 文 雄	尾崎邑鵬・井茂圭洞・大井錦亭	松永 真丸
中井 貞 次	栗原蘆水・榎倉香邨・種谷扇舟	安西 水一
栗木 達 介	甫田鷄川・小山やす子・石飛博光	U. G. サト
宮田 亮 平	杭迫柏樹・藤木正次・吉田成堂	早川 良雄
松永 勲	津金孝邦・池田桂鳳・松永暘石	早戸 正寿
竹内 順 一	田中節山・村上俄山・黒田玄夏	杉浦 康平
栗木 達 介	宮崎葵充・赤江華城・金子卓義	秋山 孝享
中井 貞 次	星 弘道・宮重小蘭・西野象山	遠藤 誠平
島田 文 雄	吉川蕉仙・清水透石・作田英嗣	中村 良平
竹内 順 一	岩井韻亭・光宗道子・大井錦亭	小島 正一
宮田 亮 平	伊藤天游・井茂圭洞・田岡正堂	小永 正実
島田 文 雄	稲垣菘圃・横山煌平・船本芳雲	新三 木健
増村 紀一郎	樽本樹邨・東山一郎・辻元大雲	

# 第15回 放美展記録

会 期 平成19年 5月2日(水)～5月6日(日)  
会 場 県郷土文化会館

## 日 本 画

〔審査員〕 橋本 正弘 岡 英彦 中川 健  
〔運営委員〕 西野 和男 長谷 壽  
〔無鑑査〕 黒田 實  
〔放美賞〕 天羽 弘毅  
〔四国放送開局55周年記念賞〕 米沢 稔  
〔優秀賞〕 齋藤 久男 西岡 ちほ  
〔入 選〕 有井 和子 岸本 好美 水田 貴子 東 千鶴 江上 豊  
中村 繁子 島山 耀子 澤 真弓 井上 弘子 藤村ミチヨ  
岩脇 恵子 植田 忠生 仁木 正子 大草 明子 中村 りえ  
瀬尾 佑佳 松本 恵 泉 福美 鈴木 恵子 吉本 悦子  
綿谷富美子 石動 智子

## 洋 画

〔審査員〕 河田 安市 榊田 務 松川 寛  
〔運営委員〕 玉田 秀子 長尾 弘久  
〔美協会長〕 佐野比呂志  
〔美協理事〕 岡 多美子 黒崎 志郎 岡田 守  
〔無鑑査〕 福良 哲子 青木 幸子 木下 和江 岸本 花子 田中シゲミ  
大西 文代  
〔放美賞〕 野口 暁子  
〔四国放送開局55周年記念賞〕 浅山 久子  
〔優秀賞〕 武田 洋子 田中 康子 北 美智子 曾我部秀子 若山 一恵  
山口 明美 近藤 千尋  
〔入 選〕 重清 政章 吉村 朋恵 小笠原秋子 堀江 幸子 川田 績  
松浦 英子 尾西 敬子 佐藤 友美 香西 咲紀 市原智美子  
住友 政雄 山田 智千 松島 正 浅野さおり 井住香代子  
山口 興一 伊良原貞子 中川 清隆 南 清子 林 敏雄  
井沢 忠昭 富岡 晴恵 井関久美子 新藤佐代子 曾我部清美  
坂東 弘子 花谷美登理 鈴木 敬子 長井 秀夫 土橋 正子  
大村八重子 梅津美砂代 竹原 良亮 和田 寿子 阿部 昌子  
阿部 幸子 答島 和年 佐々木公子 白草 由子 野上 恵子  
大松智恵子 佐古 秀子 馬淵 尚子 福田 紀子 米沢 博  
真鍋たえ子 篠原 稔 横手 義人 吉村 佳己 村上 富子  
下内 一弘 西川 照美 古川 香織 栗本 正子 吉田千枝子

中本真由美	金川 陽香	窪田 衣美	斎藤 桃子	岡本 夏奈
米津 良子	前野 亮治	前川フキ子	山岡 沙織	丸関 朋子
島田美奈子	瀧川 勝雄	宮本 典代	中村 由春	細川 遙
中西 葵	宝山 蘭美	岡田 典子	横井嘉世恵	岡本 汐加
野中 美佐	市原 幸子			

## 写 真

[審査員]	櫛淵 魏	荒井 賢治	上野 照文		
[運営委員]	武内 亨				
[美協顧問]	西條 征二				
[美協理事]	井上 光雄				
[無鑑査]	小林 保子	佐々木敏幸	川眞田慶治	久保 英樹	栗田ふさえ
	大和 健司	西野 倫子	石川 徹雄	森住 博	
[放美賞]	平野 史子				
[四国放送開局55周年記念賞]	臣守 澄江				
[優秀賞]	佐治 孝	根ヶ山 治	島 廣幸	清水 宗保	武林 恭史
	山本 雅敏	森内 昭男	播 博文	松家 安信	富岡佳代子
	篠原 治雄	多田 進	森崎 敦子	梅本 貞範	川西 明雄
[入選]	佐治 孝(2)	三木 啓治	谷 賢太郎	神野 太三	秋山 靖
	山田 勝二(2)	郡 利明	郡 訓子(2)	森 光(2)	河田 清(2)
	根ヶ山 治(2)	根ヶ山美江(3)	稲住 修次	林 邦光	吉本 武彦
	島 廣幸	島 昌史(2)	吉田 隆之(2)	柳川 信子(2)	野口 真
	志摩 育美	中野 久世	堤 信寿	竹谷 マリ(2)	竹谷 政登
	岡村 清(2)	富樫 晃(3)	谷 嘉明	梶村 鉄次(2)	棚橋 仁志(2)
	池添 秀信(3)	村雲 清郷	島上 光(3)	宮本 文男(2)	山口 正明(2)
	稲井 芳男	橋本 勝(2)	山本 雅敏(2)	佐藤 考利(3)	坂東 明利
	上杉 大一	竹内 好文	久我 千鶴(2)	佐野 和史(3)	大西 忠(2)
	大西 啓子	福井 邦博(2)	山下 助信	福井 純子(2)	宮前 稔(2)
	佐倉 幹雄	原田 武二	加藤 千明(2)	赤尾 壽一	阿部 君子
	賀川 泰広(2)	四宮 正恵(2)	富加見美枝	福原 敏雄(2)	踏脱 公男
	高野 作男(2)	野口 道子(3)	岡田 佳子(2)	播 博文(2)	渡邊 信二(3)
	一宮 康人(3)	松家 安信	富岡佳代子(2)	榎本 悟(3)	喜屋田義雄(2)
	八村 澄枝(2)	内藤 晃(2)	内藤クニエ(3)	篠原 治雄(2)	松原 玲子(2)
	林 広司(2)	多田 進(2)	米塚 稔(3)	森崎 敦子(2)	増谷 好子(2)
	原田 章一(2)	小笠原弘明(2)	福永 豊	中川 健次(2)	四宮 清文(3)
	辻 絹子(2)	岡村 吉啓(3)	椎野シゲ子(3)	新居 奏	武田 淳子(2)
	梅本 貞範(2)	川西 明雄(2)	土橋 成行	辻 義徳(2)	平野 史子(2)

## 彫 刻

〔審査員〕 濱口 恵 長岡 強  
 〔運営委員〕 松永 勉 佐藤 隆 井下 俊作  
 〔美協副会長〕 河崎 良行  
 〔美協理事〕 鎌田 邦宏  
 〔無鑑査〕 東 光司 二宮 治夫  
 〔放美賞〕 加藤 由恵  
 〔四国放送開局55周年記念賞〕 武田亜希子  
 〔優秀賞〕 米田 陽一  
 〔入 選〕 長田喜太郎 青木 成実 山田 舞 辻 清彦 猪子 まい  
           大西 葵 兼松 英明 与 吉 山橋大二郎 森 拓己

## 美術工芸

〔審査員〕 七條猪王郎 松下 慶一 多智花佐代子  
 〔運営委員〕 森 賢一  
 〔無鑑査〕 斎藤 和彦 四十宮年代  
 〔放美賞〕 田村栄一郎  
 〔四国放送開局55周年記念賞〕 松原 敦子  
 〔優秀賞〕 加藤 伴江 中西 達也 大貝 貞雄 吉田 陽子 平岡英津子  
           田村 純子 松島 典子 里見 正威  
 〔入 選〕 武田 美子 安富 順子 八木 智江 大川 健次 清水由利子  
           森 克江 木田サチコ 安原多恵子 玉木 隆子 柿田コイト  
           垣内耕太郎 木村 秋夫 阿部まきみ(2) 前田 道子 四宮 千代  
           丸井 明 児島カツ子 桶木 清子 加藤 和美 成瀬八千子  
           永山昭一郎 竹内寿和子 板東 啓子 鈴江 兼子 曾江 司  
           坂野 敏子 渡辺智恵子 原 流源 谷の 激流 楠 正陶  
           手塚 健一 岡崎 雅江 阿部 巍 高瀬 裕司 石川多美子  
           西田 善彦 大貝 貞雄 大貝 寿子(2) 南 泰樹(2) 南 郁代(2)  
           林 恵子 藤中 教代 家形笑美子 大木 真澄(2) 松本 宏  
           塩出 敬子 戸島 裕明 吉田 陽子 相原 良平 笠井知恵子  
           秋山 千寿 隅田 良佑(2) 阿部真由美 新見 道代 田村 佳代  
           河野 妙子 梶原 浩二 佐藤アヤ子 山村 禎宏 山本 啓子  
           和佐 豊子 宇都宮二美 谷 陽子 大川 雅代 日高 琴美(2)  
           青木 壽美 平尾 静子 横井嘉世恵 鳥井 明子 山岡佳代子  
           山川 恵子 村上 綾子 古谷 清美 一宮多枝子 富永 裕子  
           矢竹 源久 里見 正威 下内 良一 松本みづる 小笠原瑞穂  
           池淵 節子 久保 祐子 前野 亮治 吉野 由紀 保坂 美保

清水 晶子	村川 榮一	近藤富美代	小川 光	阪井 和代
石田 艶子	谷内 年子	巽 安子	近藤佐起江	藤井 雅代(2)
与 吉	橋本いつ代	吉田 晃子	福本 弘子	大内 敏男
小林 重美	萬藤 武徳	榎塚 榮一	武田 潤子	森 裕紀
有内 則子	藤川 愛子	吉本 彩夏	宮本 薫	

## 書 道

〔審査員〕	高田 青蓮	玉城 乾香	薄田 玲泉			
〔運営委員〕	上田 溪水	長原 奉聖	長谷 美峰			
〔美協理事〕	新居 藍州	勝瀬 景流	春藤 大耿			
〔放美賞〕	武田 玲香					
〔四国放送開局55周年記念賞〕	村部 紘子					
〔優秀賞〕	井上 彰夫	益岡 輝実	谷本 洋子	原 貞子	岡崎 啓香	
	三崎美佐代	高橋加奈子				
〔入選〕	田中 久子	吉田 幸子	洲崎 忠雄	桐生 弘美	藤永 真里	
	森井 常吉	弘田 敏章	高山日出夫	吉田 純	坂野 虹花	
	脇 博	佐藤 春代	春川 登	川内 成美	手塚奈緒子	
	野上 真	佐藤 恵美	大谷 隆晴	島田 聖翠	真武 芳祥	
	豊田 芳雨	小野 幸久	辻 光石	松本 景芳	遠藤 禎子	
	米延 星雨	米沢 良子	片山 保	藤本 瑤香	大本 雅人	
	引地 美貴	長尾 香蘭	中野 暢香	玉城 乾舞	谷口 香葩	
	庄野 乾翔	下山 花織	近藤 由子	大西 清葩	大西 英仙	
	上原三千代	大和 公風	久積富美子	陶久 房枝	岡本美津代	
	泰地 宏枝	白木 郁登	向井 絵美	大野シゲ子	今柴有美子	
	河野 由紀	森 和子	鴻野千賀子	猪尾 直治	小村千代子	
	大塚 清二	森上 秀山	古谷ますみ	岡 亨	大塚 久子	
	中川恵美子	奥田 文子	西改 俊子	笠原 笑子	森本 茂宏	
	乾 信雄	杉本 妙子	宮本 暁美	牧本ちあき	安芸 瑤子	
	英 佳那	酒井 萌艸	鈴木 明美	牧野 好邨	沖野 道代	
	猪井 茂美	秋田 初子	横田 布美	須藤 智子	石田 理夏	
	齋藤 沙季	元木 美佐	福永 祥子	石川 恵巳	西岡めぐみ	
	清水 加織	青木 賀子	岩戸 敦美	古谷 香苗	西條 優季	
	西藤 真里	白木 茜	馬木 由佳	石川 翔子	乘島 栄子	
	島田 眉翠	白木 千理	佐野 久美	原田 千代	田中 充子	
	富永 裕子	渡邊 香婉				

## デザイン

〔審査員〕 田中 一郎 沢口 功 敷島のり子  
 〔運営委員〕 坂本三千一 北島 豊嗣  
 〔美協理事〕 福井 章  
 〔放美賞〕 安藤 綾沙  
 〔四国放送開局55周年記念賞〕張 麗媛  
 〔優秀賞〕 佐伯 奏美 安藤 綾沙 岡本 愛美  
 〔入選〕 林 敏雄 森 美穂 伊東 大輔 湯浅 裕子 籠家 弘高  
           天羽 宏美 三木由佳里 梅本 愛美 佐伯 奏美 上野 香織  
           高野 恵吏 東谷 薫 池内 由貴 森本 菜暁 近藤 仁美  
           四宮 光理(2) 島 美里(2) 近藤 美幸 西内奈緒子 内村 瞳子  
           松平 仁美 宮本 晃志 田中 裕基 山本 衣杏 槇野 夏希  
           江口 麻友 伊勢 容子 村上 由香 榊 愛美 佐野 静香  
           松原 しほ 於久 渚 井原 嵩智 服部友璃香 岩佐新太郎  
           勢川 理紗 寺野由理香 古賀 遥

### 第15回放美展出品・入選等状況

区分	部門	日本画	洋画	写真	彫刻	美術工芸	書道	デザイン	計
出品数		38	184	376	18	182	186	73	1,057
人数		36	147	147	17	123	166	64	700
入選	率	68.4%	46.7%	50.5%	72.2%	69.8%	59.7%	61.6%	56.6%
	放美賞	1	1	1	1	1	1	1	7
	記念賞	1	1	1	1	1	1	1	7
	優秀賞	2	7	15	1	8	7	3	43
	入選	22	77	173	10	117	102	40	541
	計	26	86	190	13	127	111	45	598
選外	率	31.6%	53.3%	49.5%	27.8%	30.2%	40.3%	38.4%	43.4%
	落選	12	98	186	5	55	75	28	459
無審査	審査員	3	3	3	2	3	3	3	20
	運営委員	2	2	1	3	1	3	2	14
	美協役員		4	2	2		3	1	12
	無鑑査	1	6	9	2	2			20
	計	6	15	15	9	6	9	6	66
展示数		32	101	205	22	133	120	51	664

---

# 各部記録

---



# 日 本 画 部

部 会 長 西 野 和 男

## 年間展望

### ◎第15回放美展（5月2日～5月6日 県郷土文化会館）

出品点数は38点で、その中から入選22点、放美賞1点、記念賞1点、優秀賞2点を選んだ。内容的にも技術的にも優れた作品が多く力作ぞろいだった。

会場の関係で、入選しなかった作品の中にも、魅力的で好感のもてる作品が多々あった。日本画の絵の具は扱いがむづかしいが、それに気を取られずに、素直に感じたままを表現してほしい。

放 美 賞	「樹林」	天羽 弘毅
記 念 賞	「廃墟」	米沢 稔
優 秀 賞	「宅配便」	齋藤 久男
〃	「レタス」	西岡 ちほ

### ◎第62回県美術展（10月3日～10月11日 県郷土文化会館）

今回の審査は、日展評議員の能島和明先生にお願いした。応募点数51点で、その中から特選（特別賞）1、特選1、準特選3、奨励賞3、を含む入選33点を選んだ。能島先生からの総評は次のようなものであった。

作風・題材とも多彩な作品が並んだ。いずれも作者の一生懸命描いた気持ちが伝わってくるが、うまく見せようという作為や気負いが表れた作品が少しあったようだ。絵は、自分の気持ちを映す鏡のようなものである。作者独自の視点やそのものから受けた感動が表れた作品こそが、見る人を感動させる。

技法が先走ると絵で伝えたいことがぼやけてしまう。気負わず、物事から受けた感動を素直に表現してほしい。一つの技法にこだわるのではなく、多彩な作品に触れることで感性を磨き、さまざまな描き方を追求してほしい。

特 選（県知事賞）	「黙」	石動 智子
〃	「草叢千の風」	岡谷あかね
準特選	「白い雲」	平野 真里
〃	「夏の終わりに」	宮越 千佳
〃	「風薫る泰山木」	吉田 満子
奨励賞	「窯」	鳥山 耀子
〃	「扉」	秋月ヒサヨ
〃	「焚き口」	泉 福美

## 会員消息

(県展関係は除く。月別。)

3月	第41回日本墨彩画院展	香川文化会館	長谷壽・天羽弘毅
♪	第1回牟岐城趾桜花展	阿南牟岐城趾	長谷壽・天羽弘毅
♪	第46回日本南画院展	東京、京都、大阪美術館	長谷壽・藤井瑞雲
4月	第42回日春展	東京銀座松屋	橋本正弘(日春賞)・岡英彦・土方るみ子
♪	橋本正弘展	阿南市文化会館	橋本正弘
5月	第45回阿南市美術展	阿南市文化会館	長谷壽・津田津保三・天羽弘毅
♪	ツーバイツー展	阿波銀プラザ	斎藤久代他5名
6月	第39回珀雲社展	阿波銀プラザ	長谷壽・藤井瑞雲・川原光恵
9月	第36回仙台・徳島文化交流美術展	県郷土文化会館	土井洋子・斎藤久代・坂容子 他11名出品
♪	第98回徳島県女流美術展	県郷土文化会館	土井洋子・斎藤久代・坂容子 他11名出品
10月	第64回有秋会展	大阪市立美術館	長谷壽・藤井瑞雲
♪	第8回美波町由岐地区文化祭展	由岐ポッポマリン	長谷壽
♪	阿波和紙とアートの出会いを求めて	阿波和紙伝統産業会館	西野和男・岡英彦・土方るみ子・土井洋子
11月	第39回日展	国立新美術館	橋本正弘(特選)・土方るみ子
♪	第36回阿南市文化祭美術展	阿南市文化会館	長谷壽・津田津保三・天羽弘毅
♪	第8回福井町文化祭展	阿南市福井町総合センター	長谷壽
♪	美波町日和佐地区文化祭展	日和佐公民館	坂本久江・白河邦子・西口光代・南清子
♪	水田貴子日本画展	ギャラリーグレイス	水田貴子
♪	07名士名流作品展	大阪阿倍野近鉄	土方るみ子
12月	第38回石井美術の会作品展	阿波銀プラザ	中川健
♪	第15回湊生社水墨画展	阿波銀プラザ	横田谿秀・江上豊溪
♪	第36回歳末チャリティー作品即売展	徳島そごう	長尾弘子

# 洋 画 部

部 会 長 榊 田 務

## 年間展望

◎第62回県美術展 (10月3日(水)～10月11日(木) 会場・徳島県郷土文化会館)

第62回県展は、県郷土文化会館の改修工事が完了し、今年の会場〈アスティとくしま〉から従前どおりの開催となった。

応募作品の総数は300点で、前回より38点少ない。国民文化祭美術展の搬入と期を同じくしたこともあり、その影響も考えられる。入選点数は131点、入選率43.7パーセントは過去最高の入選率である。

入賞作品数は、特選3点(内1点は県議会議長賞)、準特選6点、奨励賞5点の計14点である。

審査員には、国画会会員の島田鮎子先生をお迎えした。午前9時30分から午後3時過ぎまで丁寧に審査に当たっていただいた。

審査評の一部を紹介する。

「徳島の風土にはぐくまれた感性がどのような作品を生み出すのか、楽しみにしていた。想像以上にレベルが高く、丁寧な審査を心掛けてもなお、落選作を決めるのはしのびなかった。特選作は偶然にも、すべて女性の作品となったが、全体として描かれたテーマがはっきりとしており、良かったと思う。

県議会議長賞の三木洋子「エスカルゴと静物」は、どこか中世の時代を感じさせ、古典的な香りが漂う油絵らしい作品。こげ茶色を有効に使い、静ひつな空気が絵全体から感じられる。配置もよく、細々とした物が、きちんと枠に収まっている。しっとりとした質感も素晴らしい。

特選の横石和子「樹脈」は、点描画で表現された木の根っこの造形がユニーク。見上げた空を背景に、天に向かって伸びていく木の躍動感がよく出ている。構図も奇抜で、入賞作の中では最も現代的な作品といえよう。

特選の野口暁子「蓮根畑の秋Ⅰ」は荒々しいタッチが印象的な作品。岩の輪郭や境界線など黒い線を効果的に使っている。ところどころに用いられた赤が、収穫を終えた畑の荒涼としたさまを際立たせている。

絵は展覧会のために描くのではなく、自身の高揚のために続けてほしい。気負わず、楽しく描くことが大切。多種多様な表現がある中でいかに個性を出していくか。その答えは、表現したいことを素直に、才をてらわず、じっくりと腰を据えて描くこと。それが上達の近道にもなると思う。」

今回も、作品の大きさを上限60号と定めたことで入選点数を130点プラスアルファと

算定した。(実数131点) その結果、前回同様、入選者数の増加は、好感をもって迎えられるようである。洋画部委員会での意見も、この状況を継続する方向でまとまっているが、他部門との関係も考慮しながら考えていく必要がある。その他、審査の流れ、入落作品の確認と保管、展示など、よく検討して第63回展に臨みたい。

◎第15回放美展 (5月2日(水)～5月6日(日) 会場・徳島県郷土文化会館)

洋画部門の応募者は147人、点数は184点で、前回に比してわずかながら減少した。入賞・入選は86点で入選率46.7パーセントと例年のことながら厳選となった。壁面の都合で展示されなかった作品も遜色のない好作品で不運としか言いようがない。今後も精進されて応募されるようお願いしたい。

受賞作品の審査評の一部を紹介する。

「放美賞の野口暁子さん「吉野川冬Ⅰ」は発酵したふるさとのイメージをシンプルな色彩と構成でまとめて見事。視点の意外性にも魅力がある。四国放送開局五十五年記念賞の浅山久子さん「待つ」は現代の若者のもつ憂愁感が漂う好作品。優秀賞の武田洋子さん「ガード下」は都市の一角をとらえ情感豊かである。山口明美さん「果樹園」は人物の赤と白のコントラストがおもしろい。北美智子さん「都会の川」は客観的なようで、心情が重ねられている。近藤千尋さん「春の彩り」はパステルのやわらかい色調で繊細な雰囲気。若山一恵さん「ノスタルジャー」は独得な感性で心象風景をフォルムに生かしている。曾我部秀子さん「山の幸」、田中康子さん「ホルスタインの母子」は、ともに身近な生活に題材を得てヒューマンな眼差しで描きあげた。」

◎第21回洋面部会員展 (5月24日(木)～5月27日(日) 会場・徳島県郷土文化会館)

出品総数は91点、各作品とも力作ぞろいで見ごたえのある展覧会になった。会員相互の研究・交流の場として、更なる充実を図り、県民の方々から愛好される展覧会になるよう念願してやまない。会員の皆様のご協力を切にお願いしたい。

なお、会期中の5月26日には、会員相互の親睦を深める懇親会をホテルグランドパレス徳島で開催した。当日、運営委員の異動や会計報告、20回記念展の折にご講演を頂いた佐野比呂志会長の講演要旨を配布し、終始なごやかに終了した。

会員消息

(県展を除く。五十音順。)

- 青木 幸子 洋画部会員展(郷文)、八紅展(阿波銀プラザ)、第22回国文祭美術展(徳島県立近代美術館)
- 浅山 久子 八紅展(阿波銀プラザ)、第22回国文祭美術展(徳島県立近代美術館)
- 東 紀美子 洋画部会員展(郷文)、徳島アート21第5回展(阿波銀プラザ)、第46回阿南市美術展、つくしの会・波の会合同絵画展(阿南市文化会館)、第22回国文祭美術展(徳島県立近代美術館)

- 天田 弘之 第40回モダンアート徳島支部展、第19回療4人展、日本美術家連盟四国地区徳島県在住会員展（阿波銀プラザ）、第40回石井美術の会展（郷文）、第57回モダンアート展（東京都立美術館）、第57回モダンアート京都展（京都市立美術館）、第26回関西モダンアート展（奈良市美術館）
- 阿部 昌子 第38回土曜展（徳島市シビックセンター）、第63回青美展（郷文）、第22回国民文化祭美術展（徳島県立近代美術館）
- 井沢 忠昭 洋画部会員展（郷文）、第46回阿南市美術展（阿南市文化会館）、全理展（東京代々木全理連会館）、加茂谷文化展（阿南市加茂谷公民館）、青彩美術展（徳島市シビックセンター）、第22回国文祭美術展（徳島県立近代美術館）
- 伊勢 浩章 徳島アート21第5回展（阿波銀プラザ）、15人展（ヨンデンプラザ徳島）、洋画部会員展、平和美術展（郷文）、二人展（バンサン）、第22回国文祭美術展（徳島県立近代美術館）
- 乾 繁春 第67回美術文化展：会員出品（東京都立美術館）、第67回関西美術文化展（大阪市立美術館）、美術文化14人展（東京銀座アートギャラリー）、美術文化四国支部展（善通寺市立美術館）、NHK高松文化センター水彩・油彩美学展：賛助出品（高松市サンポート市民ギャラリー）、第66回世代美術展（徳島市シビックセンター）、乾繁春個展（徳島そごう美術画廊）
- 宇高 桂子 第61回女流画家協会展（東京都立美術館）、洋画部会員展、第98回徳島県女流美術家協会展（郷文）、第22回国民文化祭美術展（徳島県立近代美術館）
- 越久 高照 青美展、洋画部会員展（郷文）、徳島市芸術祭美術展：招待出品（徳島市シビックセンター）、藍美展（藍住町福祉センター）
- 大塚 政政 阿波市・吉野川市二市交流美術展（阿波文化センター）
- 大西 文代 青彩美術展（徳島市シビックセンター）
- 大西利律子 徳島市芸術祭美術展（徳島市シビックセンター）、徳島アート21第5回展（阿波銀プラザ）、洋画部会員展、徳島新聞カルチャー展（郷文）、おどる国文祭（瀬津美術館）、第22回国民文化祭美術展（徳島県立近代美術館）
- 大野 文雄 青彩美術展（徳島市シビックセンター）
- 岡田 和泰 第29回鴨島美術グループ展（吉野川市文化研修センター）、個展（ギャラリー喫茶グレイス）
- 岡田 君代 青美展、洋画部会員展（郷文）、15人展（ヨンデンプラザ徳島）
- 岡田 守 第66回世代美術展（徳島市シビックセンター）、洋画部会員展（郷文）
- 小笠原秋子 池田文化まつり（ヨンデンプラザ池田）、三野文化まつり（三野町立体育

- 館)、三好郡教職員春風展 (たばこ資料館)
- 尾形 正二 第67回美術文化展 (東京都立美術館)、美術文化徳島支部展 (阿波銀プラザ)、美術文化四国支部展 (善通寺市立美術館)
  - 尾崎 素子 第73回東光展 (東京都立美術館)、第28回東光会徳島支部展 (郷文)、鳴門市展 (鳴門市体育館)、第29回白鳳グループ展 (鳴門市立図書館)
  - 賀木 道子 第73回旺玄会展: 委員出品 (東京都立美術館)、第66回世代美術展 (徳島市シビックセンター)
  - 加賀谷愛美 第61回女流画家協会展 (東京都立美術館)、アートクラブ・響 (阿波銀プラザ)、遊・遊展 (徳島市シビックセンター)
  - 片山 富市 第73回旺玄会展: 会員出品 (東京都立美術館)、第73回旺玄会大阪巡回展: 会員出品 (大阪市立美術館)、第11回旺玄会東四国支部展 (阿波銀プラザ)、洋画部会員展 (郷文)
  - 河田 安市 第39回日展: 会友 (国立新美術館)、第83回白日会展: 会員出品 (東京都立美術館)
  - 河野 公子 第67回関西美術文化展 (大阪市立美術館)、洋画部会員展、青美展、平和美術展 (郷文)、15人展 (ヨンデンプラザ徳島)、美術文化四国支部展 (善通寺市立美術館)
  - 河本多恵子 洋画部会員展、徳島市芸術祭文化展: 無鑑査出品、徳島新聞カルチャー展 (郷文)、八紅展 (阿波銀プラザ)、第22回国民文化祭美術展 (徳島県立近代美術館)、国府文化祭 (国府町コミュニティセンター)
  - 木谷 弘 第67回美術文化展 (東京都立美術館)、第67回関西美術文化展 (大阪市立美術館)、美術文化四国支部展 (善通寺市立美術館)、第66回世代美術展 (徳島市シビックセンター)、悠美展 (ヨンデンプラザ徳島)
  - 北 美智子 第30回八紅展 (阿波銀プラザ)、第22回国民文化祭美術展 (徳島県立近代美術館)
  - 木下 和江 徳島アート21第5回展 (阿波銀プラザ)、三好市文化まつり (ヨンデンプラザ池田)、個展 (阿波池田うだつの家)
  - 岸本 花子 徳島市芸術祭美術展 (徳島市シビックセンター)、第30回八紅展 (阿波銀プラザ)、徳島新聞カルチャー展、洋画部会員展 (郷文)、八万文化祭 (八万コミュニティセンター)
  - 黒崎 志郎 第60周年記念示現会展: 会員出品 (国立新美術館)、同巡回徳島展、洋画部会員展 (郷文)、第95周年記念日本水彩展: 会員出品 (東京都立美術館)、第38回示現会徳島支部展、日本美術家連盟四国地区徳島県在住会員展 (阿波銀プラザ)

- 答島 久子 第46回阿南市美術展、つくしの会・波の会合同絵画展、第36回阿南市文化祭（阿南市文化会館）、第22回国民文化祭美術展（徳島県立近代美術館）
- 近藤 克子 第73回東光会展（東京都立美術館）、東光会徳島支部展、第98回徳島県女流美術家協会展、第39回画展ふるさと（郷文）
- 後藤ユリ子 第67回美術文化展（東京都立美術館）、第67回関西美術文化展（大阪市立美術館）、美術文化四国支部展（善通寺市立美術館）、美術文化徳島グループ展（阿波銀プラザ）、洋画部会員展（郷文）、個展（グレイス）
- 後藤田仁一 第67回美術文化展（東京都立美術館）、第67回関西美術文化展（大阪市立美術館）、美術文化四国支部展（善通寺市立美術館）、美術文化徳島グループ展、日本美術家連盟四国地区徳島県在住会員展（阿波銀プラザ）、第66回世代美術展（徳島市シビックセンター）、悠美展（ヨンデンプラザ徳島）
- 佐野比呂志 第44回関西独立展：無鑑査出品（大阪市立美術館）、徳島市芸術祭美術展：審査員出品、第66回世代美術展（徳島市シビックセンター）、徳島アート21第5回展：賛助出品、日本美術家連盟徳島県在住会員展（阿波銀プラザ）
- 佐藤 敬子 第21回洋画部会員展、第63回青美展（郷文）
- 清水 亟悞 東光展（東京都立美術館）、カンヌ国際栄誉賞（グランプリ）、第40回清水亟悞個展（徳島そごう美術画廊）
- 斎藤 靖子 日本版画院展：会員出品（東京）、徳島版画会展（阿波銀プラザ）、徳島県女流美術家協会展、ふるさとを描き遺す会（郷文）、東方友好交流展（マレーシア国立美術館）、国際平和美術展（イタリア、サンピエトロ美術館）、悠美展（よんでんプラザ徳島）、版画と染色展（東かがわ市）
- 志摩 政照 吉野川市・阿波市二市交流美術展、第29回鴨島美術グループ展（吉野川市文化研修センター）
- 島上 二郎 第73回東光展：会員出品（東京都立美術館）、東光会徳島支部展（郷文）
- 島田美奈子 徳島市芸術祭美術展（徳島市シビックセンター）、八紅展（阿波銀プラザ）八万文化祭（八万コミュニティセンター）
- 下時治郎秀臣 第83回白日展：会員出品（東京都立美術館）、白日会巡回展（愛知・鹿児島・大阪）、選抜展（阿倍野近鉄画廊）、陸月会展（銀座相模屋美術画廊）、五星会洋面展（福岡三越）、現代洋画秀作展（青少年センター、梅田画廊）、鴨島美術グループ展（吉野川市文化センター）、日展入選（国立新美術館）
- 住友 義彦 ふるさと祭展（羽ノ浦町公民館）
- 鈴木 敬子 洋画部会員展（郷文）、アトリエM展（阿波銀プラザ）、吉野川市総合美術展、第29回鴨島美術グループ展（吉野川市文化研修センター）
- 曾我部秀子 洋画部会員展（郷文）、徳島市芸術祭美術展（徳島市シビックセンター）、

八紅展（阿波銀プラザ）、八万文化祭（八万コミュニティセンター）しらさぎ台文化祭（しらさぎ台集会所）

- 武田 洋子 三好市東祖谷文化祭（歴史資料館）、三好市文化祭（三好市三野町体育館）、春風展（たばこ産業資料館）
- 田中シゲミ 徳島市芸術祭美術展：無鑑査出品（徳島市シビックセンター）、大麻町文化祭（大麻町公民館）、J A 徳島北文化交流展（J A 徳島北事業所）、洋画部会員展、徳島新聞カルチャー展（郷文）、第22回国民文化祭美術展（徳島県立近代美術館）
- 田中 康子 徳島市芸術祭美術展：無鑑査出品（徳島市シビックセンター）、八紅展（阿波銀プラザ）、国府文化祭（国府コミュニティセンター）、第22回国民文化祭美術展（徳島県立近代美術館）、洋画部会員展（郷文）
- 田淵 浜子 第73回東光会展（東京都立美術館）、東光会徳島支部展（郷文）、
- 為実美恵子 三好市文化まつり（ヨンデンプラザ池田）
- 玉田 秀子 徳島アート21第5回展、八紅展（阿波銀プラザ）、つくしの会・波の会合同絵画展（阿南市文化会館）、徳島市芸術祭美術展（徳島市シビックセンター）
- 辻野 正廣 3人展（徳島市シビックセンター）
- 露口 敏幸 第21回洋画部会員展（郷文）、第66回世代美術展（徳島市シビックセンター）、第22回国民文化祭美術展（徳島県立近代美術館）
- 唐渡 覚 第22回国民文化祭美術展（徳島県立近代美術館）
- 中辻奈美枝 洋画部会員展（郷文）、徳島アート21第5回展（阿波銀プラザ）、第36回阿南市文化祭、第46回阿南市美術展、つくしの会・波の会合同絵画展（阿南市文化会館）
- 中山 清一 第67回美術文化展（東京都立美術館・京都市美術館）、第67回関西美術文化展（大阪市立美術館）、美術文化四国支部展（善通寺市立美術館）、美術文化徳島支部展（阿波銀プラザ）、ねんりんぴっく茨城大会（つくば美術館）、第22回国民文化祭美術展（徳島県立近代美術館）
- 中村 晴代 青彩美術展（徳島市シビックセンター）、洋画部会員展（郷文）
- 永井 郁枝 第73回東光会展：会員出品（東京都立美術館）、東光会徳島支部展、洋画部会員展（郷文）
- 長野 満子 洋画部会員展、画展ふるさと展、絵で見る徳島展、シルバー大文化祭展（郷文）、21世紀に遺したいふるさと徳島展、城博ボランティア友の会員展（城博）、シルバー大OB会員展（福社会館）
- 南城ミツ子 第73回東光会展：会員出品（東京都立美術館）、洋画部会員展、東光会徳島支部展（郷文）、徳島市芸術祭美術展：招待出品（徳島市シビックセン



ター)

- 仁木 幸子 洋画部会員展（郷文）、八万町民文化祭（八万コミセン）
- 西川 敬子 徳島アート21第5回展（阿波銀プラザ）、第98回徳島県女流美術家協会展・仙台徳島文化交流美術展（郷文）
- 西川 周三 徳島アート21第5回展（阿波銀プラザ）、第22回国民文化祭美術展（徳島県立近代美術館）
- 西川 照美 アトリエバクグループ展（阿波銀プラザ）
- 西崎 志帆 第33回昭和美術会展（京都市立美術館）、平和美術展（郷文）、伊勢浩章・西崎志帆2人展（珈琲店パンサン）、15人展（ヨンデンプラザ徳島）、第22回国民文化祭美術展（徳島県立近代美術館）
- 二條 均 洋画部会員展、徳島平和美術展、青美展（郷文）、板野美術クラブ展（板野町文化の館）
- 野上 恵子 第35回徳島市芸術祭美術展、洋画部会員展、徳島新聞カルチャー展（郷文）、八紅会展（阿波銀プラザ）、八万文化祭（八万コミュニティセンター）、第22回国民文化祭美術展（徳島県立近代美術館）、佐那河内村文化祭（佐那河内小学校）
- 野口 暁子 洋画部会員展、徳島市芸術祭美術展、徳島新聞カルチャー展（郷文）、八紅展（阿波銀プラザ）
- 野村 雅子 徳島アート21第5回展（阿波銀プラザ）、洋画部会員展（郷文）、つくしの会・波の会合同絵画展（阿南市文化センター）
- 林 康太郎 第67回美術文化展（東京都立美術館）、第67回美術文化関西展（大阪市立美術館）、洋画部会員展（郷文）、美術文化徳島グループ展（阿波銀プラザ）、美術文化四国支部展（善通寺市立美術館）
- 林 信夫 洋画部会員展（郷文）
- 日野 邦恵 第73回東光展（東京都立美術館）、東光会徳島支部展（郷文）、第22回国民文化祭美術展（徳島県立近代美術館）、第12回観音寺全国公募展（観音寺市立図書館）
- 平松 智子 吉野川市・阿波市二市交流美術展（吉野川市文化研修センター）、青美展、石井美術の会展、鴨島美術グループ展（郷文）、第22回国民文化祭美術展（徳島県立近代美術館）
- 平田スミコ 第61回女流画家協会展（東京都立美術館）、洋画部会員展（郷文）、徳島版画会展（阿波銀プラザ）、阿波和紙とアートの出会いを求めて（阿波和紙会館）、アートクラブ・響グループ展（阿波銀プラザ）、徳島版画移動展（四季美谷温泉）、一宮文化祭（一宮コミュニティセンター）

- 福富 正二 第21回洋画部会員展（郷文）
- 福本 武子 第73回東光会展（東京都立美術館）、第28回東光会徳島支部展、洋画部会員展（郷文）
- 福良 哲子 第22回国民文化祭美術展（徳島県立近代美術館）、徳島市芸術祭美術展：招待出品（徳島市シビックセンター）、洋画部会員展、徳島新聞カルチャー展（郷文）、八紅展（阿波銀プラザ）、加茂谷文化祭（加茂谷公民館）
- 藤井 香世 第67回美術文化展（東京都立美術館）、第67回関西美術文化展（大阪市立美術館）、美術文化四国支部展（善通寺市立美術館）、15人展（ヨンデンプラザ徳島）
- 藤崎 恭子 徳島アート21第5回展（阿波銀プラザ）、第22回国民文化祭美術展（徳島県立近代美術館）
- 藤丸 家栄 徳島アート21第5回展（阿波銀プラザ）、三好市文化祭（ヨンデンプラザ池田）
- 藤本 晴子 日本・ケベック友交会（カナダモントリオール国際会議場）、日本モロッコアートエキスポinカサブランカ（カサブランカ市）、ノリタケ白滋陶板アート展（ノリタケの森ギャラリー）、第13回日本の美術アートアカデミージャパン（東京銀座画廊美術館）
- 堀江 幸子 吉野川市・阿波市二市交流美術展、鴨島美術グループ展（吉野川市文化研修センター）、鴨島文化サロン展（本郷ギャラリー）、ピーコックサークル絵画展（阿波銀鴨島支店ロビー）
- 堀切 薫子 青彩美術展（徳島市シビックセンター）、洋画部会員展（郷文）、藍美展（藍住町社会福祉センター）
- 榎田 務 東光会徳島支部展、洋画部会員展（郷文）、第2回パルの会洋画展（よんでんエネルギープラザ阿南）
- 松川 寛 第57回モダンアート協会展：会員出品（東京都立美術館・京都市美術館）、第26回関西モダンアート展（奈良市美術館）、石井美術の会、燎4人展、第1回日本美術家連盟四国地区徳島県在住会員展（阿波銀プラザ）、徳島新聞連載小説「庚午の渦」の挿絵担当（H19年9月～H20年9月）
- 馬淵 博子 アトリエバク・グループ展（阿波銀プラザ）、洋画部会員展（郷文）
- 真鍋 弘子 徳島アート21第5回展（阿波銀プラザ）
- 真野 孝彦 第2回吉野川市・阿波市二市交流美術展（吉野川市文化研修センター）、鴨島美術グループ展（鴨島文化センター）、真野孝彦・佐藤友美二人展（銀座グレイス）、青美展（郷文）
- 三沢 尚子 関西水彩画展（大阪市立美術館）、第19回燎四人展（阿波銀プラザ）、第98

回徳島県女流美術家協会展、洋画部会員展（郷文）、ペアーレ水彩画展（阿波銀プラザ）、ペアーレ・ロビー展（ペアーレ徳島）

- 三谷多美子 レモンの会（脇町郵便局）
- 三谷ミヤ子 徳島市芸術祭美術展：招待出品（徳島市シビックセンター）、洋画部会員展（郷文）、東光会第1回小品展（東京都立美術館）、八紅展、第5回徳島版画展（阿波銀プラザ）、東富田絵画展（喫茶アンデルセン、ふれあい健康館）、東富田文化展（東富田コミュニティセンター）、第22回国民文化祭美術展（徳島県立近代美術館）
- 三好 初子 第73回東光展：会員出品（東京都立美術館）、洋画部会員展、第28回東光会徳島支部展、第98回徳島県女流美術家協会展・仙台徳島文化交流展（郷文）、徳島市芸術祭美術展：招待出品（徳島市シビックセンター）、第22回国民文化祭美術展：佳作（徳島県立近代美術館）、藍美展（藍住町福祉センター）
- 峯 幸子 私の愛したスケッチ展（ギャラリー喫茶グレイス）、第98回女流美術家協会展（郷文）、む・アート展（阿波銀プラザ）
- 毛利 谷子 第73回東光展：会員出品（東京都立美術館）、東光会徳島支部展、洋画部会員展（郷文）、石井美術の会作品展（阿波銀プラザ）
- 山口 和子 洋画部会員展（郷文）、青彩美術展（徳島市シビックセンター）
- 山口美千代 青美展、洋画部会員展（郷文）
- 吉田 実 吉野川市・阿波市二市交流美術展（吉野川市文化研修センター）、阿波絵画クラブ展（阿波市図書館）、第60周年記念示現会展：会友出品（国立新美術館）、第38回示現会徳島支部展（阿波銀プラザ）
- 米沢 博 第35回徳島市芸術祭美術展（徳島市シビックセンター）、第20回全国健康福祉祭美術展（茨城県つくば美術館）
- 米田 薫子 徳島新聞カルチャー展（郷文）

# 写 真 部

部 会 長 櫛 淵 魏

## 年間展望

2007年は本県で第22回国民文化祭が開催され、写真部では多数の会員が行事全般に亘り撮影記録、また美術展では企画、運営面で尽力した。一方全国公募の美術展写真部門では、梅本貞範氏が最高賞の文科大臣賞獲得を始め、入賞入選多数を受賞し開催県としての面目を施した。

### ◎第15回放美展（5月2日～6日 県郷土文化会館）

昨年は会場の郷文の改修で休展になった影響か応募点数が118点減少したのは残念であった。応募総数376点から放美賞1点、四国放送開局55周年記念賞1点、優秀賞15点、入選173点が選出された。審査員は櫛淵魏、荒井賢治、上野照文の3名が担当した。

放美賞	「朧なる」	平野 史子
記念賞	「秋景」	臣守 澄江
優秀賞	佐治 孝・島 廣幸・武林 恭史・森内 昭男	
	松家 安信・篠原 治雄・森崎 敦子・川西 明雄	
	根ヶ山 治・清水 宗保・山本 雅敏・播 博文	
	富岡佳代子・多田 進・梅本 貞範	

### ◎第62回県美術展（10月3日～11日 県郷土文化会館）

今回展は国文祭の開催で例年より約1ヶ月開展が早くなった。審査員には著名な写真家、英伸三先生をお迎えした。応募総数793点より、特選4点、準特選9点、奨励賞8点、入選129点が選出された。審査後、英先生より「実力のある作品が多かった。同じモチーフでも一点ずつ表現方法が違い、丁寧に仕上げられている。全体的に、写真に対するまなざしがストレートで明るく、徳島の風土が現れているとの印象を持った。」との高い評価をいただいた。（別項の審査評欄参照）

特 選（特別賞）	「真夏の夜」	松田みゆき
〃	「阿波踊りでの交流」	山田 勝二
〃	「リハーサル」	清水 宗保
〃	「群」	野口 佳一

準特選 久保 英樹・平野 史子・堀口 幸男・川真田慶治  
四宮 正恵・梅本 貞範・渡邊 信二・矢部 弘子  
川口 進

◎**県美協 写真部撮影会**（6月3日）

今回は撮影地に高知を選び、「高知城、日曜市、牧野植物園」の撮影会を計画し会員を募集した。参加人員32名。7時30分徳島駅前発、10時30分高知城着、14時牧野植物園へ移動、雨模様の1日であったが、全員たっぷり高知での撮影を楽しんだ。18時40分無事徳島駅到着。会開催にあたり今回も次の各委員にお世話願った。

三木 晴夫・井上 憲治・井藤 光章・古井 謙吉  
林 敏彦・上野 照文

**会員の訃報**

10月29日、数多くの傑作を発表し、長年県展招待作家として活躍された、多田晴美氏が逝去されました。享年69才。

12月27日、ユニークなベテラン作家として知られた、清水定七氏が逝去されました。享年86才。ご両人のご冥福を心からお祈り申し上げます。

**各分野での会員の活動状況 ～中央展・個展・団体展など～**

◎**第22回国民文化祭「美術展写真部門」**（10月27日～11月4日 県立二十一世紀館）

全国からの応募作品638点より入賞8点、佳作61点、入選230点が選出された。審査には県外から、田沼武能、江成常夫、織作峰子の3氏、県内から櫛淵魏、荒井賢治の計5名が当たった。

文部科学大臣賞：梅本 貞範

佳 作：森 光・久我 千鶴・岡村 清・柳本 正・堀口 幸男  
平野 史子・西野 倫子・森内 昭男・野藤みきよ・姫田 慎治  
入 選：川真田慶治・平賀俊次郎・古井 謙吉・稲井 芳男・佐野 辰夫  
板東 律雄・土橋 成行・佐治 孝・佐々木敏幸・三木 理司  
播 博文・矢部 弘子・石川 徹雄・浜田佳津子・四宮 正恵  
船越 正文・野藤 敏美・富加見美枝

◎**第55回二科会写真部展**（9月1日～ 国立新美術館）

会 員 出 品：荒井 賢治

会 友 出 品：森住 博・大和 健司・西條 征二

公募入選：内田 澄子・森内 昭男・柳川 信子・播 博文・梅本 貞範  
平野 史子

◎第15回全日本女性写真コンテスト（9月3日～14日 大阪アサヒコムホール）

入 選：内田 澄子

◎第54回阿波踊り写真コンクール（10月13日～23日 阿波踊り会館）

入 選：阿部 啓三

◎第14回朝日四国写真展（10月28日 高松市にて審査）

徳島県知事賞：川真田慶治

徳島県本部長賞：林 敏彦

特 選：井上 憲治

奨励賞：阿部 啓三

入 選：上野 照文・三木 晴夫・関口つとむ・久我 千鶴・根ヶ山美江

◎第41回日本光画会「光展」（1月6日～8日 徳島市シビックセンター）

会員出品：佐藤 義雄

会友出品：内田 忠秋・内田 澄子

◎第22回全日本写真連盟県本部展（1月19日～21日 徳島市シビックセンター）

県本部委員長：林 敏彦

出品者：橋本 圭祐・林 敏彦・姫田 慎治・藤川 光昭・古井 謙吉  
三木 晴夫・三木 理司・森 賢一・森住 博・柳川 信子  
阿部 啓三・井藤 光章・井上 憲治・上野 照文・内田 忠秋  
内田 澄子・大津 勝治・川真田慶治・久我 千鶴・櫛淵 魏  
西條 征二・佐治 孝・佐藤 考利・佐藤 義雄・伊達 照子  
根ヶ山 治・根ヶ山美江・野藤 敏美・野藤みきよ

◎第7回ユニットD写真作品展（2月1日～4日 阿波銀プラザ）

代 表：上野 照文

出品者：上野 照文・橋本 圭祐・林 敏彦・井上 憲治・多川 静守  
多田 晴美・柳本 正・野口 佳一・増田 寿・堀口 幸男

◎第38回ナルトぴんぼけクラブ写真展（2月2日～4日 鳴門市立図書館）

出品者：賀川 泰広・小川 勝・武地 雅

◎平賀俊次郎写真展「海峡の四季」（3月3日より1年間 うずしお汽船PR館ギャラリー）

鳴門海峡の渦を撮り続けて30年。平賀さんの近作19点（全紙～全4倍）を展示。

◎麻植写友クラブ第9回写真展（3月1日～31日 キタムラ鴨島店ギャラリー）

代 表：佐野 辰夫

出 品 者：佐野 辰夫・富永 幸子

◎岩崎英昭写真展「美しい徳島・パートⅡ」（3月7日～12日 徳島市シビックセンター）

徳島にこだわり、徳島を愛し撮り続ける岩崎氏の近作風景写真55点を展示。

◎第24回サンカ会写真作品展（4月14日～16日 徳島市シビックセンター）

会 長：森内 昭男

出 品 者：内田 忠秋・田中 伸廣・森内 昭男

◎第8回ニコールクラブ徳島支部写真展（4月14日～16日 徳島市シビックセンター）

支 部 長：櫛淵 魏

出 品 者：阿部 啓三・井藤 光章・川真田慶治・櫛淵 魏・西條 征二  
佐治 孝・佐藤 義雄・清水 定七・中川 定典・根ヶ山 治  
根ヶ山美江・藤田 卓嗣・古井 謙吉・堀口 幸男・堀淵 完治  
三木 晴夫・三木 理司・森 賢一

◎第5回大貝久義個展「四季の思い出写真俳句集」

（4月14日～30日 徳島市シビックセンター市民ギャラリー）

◎徳島風景写真協会「自然の四季風景写真展」

（4月18日～23日 徳島市シビックセンター）

会 長：大貝 久義

◎英藍アルテ写真展（4月20日～23日 阿波銀プラザ）

会 長：藤川 光昭

出 品 者：上野 照文・藤川 光昭

◎第30回写真同人「炎」作品展（6月8日～10日 徳島市シビックセンター）

代 表：西條 征二

出 品 者：林 敏彦・姫田 慎治・古井 謙吉・堀口 幸男・森 賢一  
大和 健司・阿部 啓三・荒井 賢治・井藤 光章・井上 憲治  
川真田慶治・櫛淵 魏・西條 征二・佐治 孝・田村 泰弘  
伊達 照子・土橋 成行・中川 定典・野口 佳一

◎第13回徳島ライカクラブ写真展（6月15日～17日 ヨンデンプラザ徳島）

会 長：武内 亨

出 品 者：武内 亨・森 光・後藤 能大

◎第25回徳島平和美術展（6月28日～7月1日 県郷文）

代 表：木田 英之

出 品 者：稲井 芳男・大田 修・岡村 清・賀川 泰広・木田 英之  
武地 雅・矢部 弘子・山田 勝二

◎第1回阿南デジタル写真展（7月3日～8日 よんでんエネルギープラザ阿南）

代 表：林 敏彦

出 品 者：大田 修・木田 英之・田村 泰弘・林 敏彦

◎第21回徳島花を写す会写真展（8月10日～12日 徳島市シビックセンター）

代 表：佐藤 義雄

出 品 者：佐藤 義雄・清水 定七・内田 忠秋・久保 英樹・吉村 敏嗣

◎第20周年記念写友「吉野川」写真展（9月21日～24日 徳島市シビックセンター）

代 表：岩崎 英昭

出 品 者：岩崎 英昭・矢部 弘子

◎第47回写楽会写真展（9月28日～10月1日 徳島市シビックセンター）

会 長：櫛淵 魏

出 品 者：櫛淵 魏・上野 照文・川真田慶治・櫛淵 紳哉・関口つとむ  
中川 定典・古井 謙吉・堀淵 完治

◎第6回大貝久義個展「四季の思い出写真俳句集」

（10月13日～29日 徳島市シビックセンター市民ギャラリー）

◎徳島風景写真協会「自然の四季風景写真展」2007年後期

（10月17日～21日 徳島市シビックセンター）

◎第2回写真同人「光」写真展（10月30日～11月4日 よんでんエネルギープラザ阿南）

会 長：木田 英之

出 品 者：木田 修・木田 英之・田村 泰広・伊達 照子・林 敏彦  
三木 晴夫・森 光

◎森住博写真展「祈り阿波の遍路みち」（11月6日～25日 県立文学書道館）

◎日本リアリズム写真集団徳島支部写真展「旅の記憶」

（11月30日～12月2日 ヨンデンプラザ徳島）

支 部 長：木田 英之



# 彫 刻 部

部 会 長 松 永 勉

## 年間展望

### ◎第62回県美術展（平成19年10月3日～11日）

今回の審査員には新制作協会会員の中垣克久先生にお願いした。出品総数は25点でそのうち入賞・入選作品には15点が選ばれた。総数では前回に比べて2点増えている。この数年出品数では大きな変化はない。やはり彫刻の特殊性から出品者の増加を望めないのが現実である。しかし継続して出品している作家のレベルは高く内容的には充実した展示になった。審査においては、時間をかけて見ていただき入賞作品を決定した。審査後の質問に対しても先生の丁寧な説明がなされた。

審査評としては「全体に出品数は少なかったものの、空間の取り方が巧みな作品や、素材のよさを生かした作品がみられ、バラエティーに富んでいた。技術的に稚拙な作品もあったが、創作の熱意のあとがみられ、努力しだいで伸びる可能性を感じさせた。」と話された。「特選（徳島市長賞）に選ばれた上月佳代さんの“far away”は体の表面を鋭角でそぎ落したり、切ったりしたモデリング処理が独特で印象的だ。首と手足との角度やバランスもよく、先の見えない混沌とした中、苦悩や不安感を抱えながらも生きる人間の姿をとらえ、強い個性が感じられる。」との評価をいただいた。上月さんは県展では何回も受賞している。女性彫刻家として個展を開催したり、二紀会でも活躍している。独特の人体を表現することで自分の分野を開拓しているようだ。今後の展開を期待したい。「準特選の武田亜希子さんの作品“共振の月”は、曲面を効果的に見せることで、素材に使っている硬い鉄を非常に柔らかく表現することに成功している。無機質なものに命を宿らせることによって、周りの空間を含め不思議な動きとリズムを与えている高度な作品だ。」との評価であった。武田さんも最近活躍している彫刻家で特に鉄を構成することを研究している。年々扱い方が上手になって素材の味を引き出している。この分野で継続して頑張ってもらいたい。次に「同じく準特選に選ばれた高丸公相さんの“惑う星”は、アクリルの中に、貝のようにも見える物体を閉じ込めた作品。不安定感がある中に、ファンタスティックなストーリーをつむぎだしているのが魅力で、あまり使われない素材で可能性に挑戦する意欲を感じる。」と言われた。高丸さんはアクリル材を巧みに利用して特異な表現を試みている作家だ。県内ではめずらしい技法なので今後が楽しみである。全体評として「彫刻の才能は、もともとあるものではなく、継続することによって、生まれてくるものだと思う。継続の原動力となるのは、彫刻が好きで打

ち込めるかどうかで、そこに創意工夫も生まれてくる。今回は選に漏れた人も、熱意を持って継続してもらうことで、より完成度の高い作品を目指してほしい。」と話された。

◎第15回放美展（平成19年5月2日～6日）

今年の出品総数は18点で前回より5点少なかったが、力作ぞろいだった。そのうち13点が具象作品で、5点が抽象作品だった。

放美賞の加藤由恵さんの“夢”は「量感をしっかりとらえ、単純化した形の中で確かに全体を追求していた。」との評価で放美賞に選ばれた。真剣に対象を見つめて制作した跡がうかがえる人体彫刻であった。四国放送開局55周年記念賞には武田亜希子さんの“space tunnel”（スペース・トンネル）が選ばれた。この作品には「回転しながら天空に開かれていく円のフォルムによって創出される空間に楽しさのある作品。」との評であった。シンプルな形を上手に構成した抽象作品だ。優秀賞の米田陽一さんの“MⅡ”には「厳しく整理された面の中で全体をとらえようとしており、豊かな可能性がにじむ。」との評価であった。その他、入選作品の中では、森拓己さんの“新芽”は、ユニークなフォルムと曲面の美しさに新鮮な生命感のあふれた秀作であり、また、木の大作や金属の楽しい作品もあって、会場が狭く感じるほどの活気があったとの感想が述べられた。（今回の審査は長岡強、濱口恵、大津文昭が務めた）

会員消息 （県展・放美展関係は除く。順不同）

居上 真人	9月	第82回二科展 2点出品：会友出品	東京、国立新美術館
	9月～11月	徳島彫刻集団45回記念野外彫刻展	徳島市中央公園
	10月～11月	第22回国民文化祭野外彫刻展、入選模型展	県立二十一世紀館
	12月	一番札所霊山寺に作品設置	霊山寺
井下 俊作	9月	第62回行動美術展：会員出品	東京、国立新美術館
	9月～11月	徳島彫刻集団45回記念野外彫刻展	徳島市中央公園
	10月	第62回行動美術展大阪巡回展：会員出品	大阪市立美術館
大津 文昭	9月～11月	徳島彫刻集団45回記念野外彫刻展	徳島市中央公園
	10月～11月	第22回国民文化祭野外彫刻展、入選模型展	県立二十一世紀館
河崎 良行	1月	第2回世樹展	東京銀座ギャラリーームサシ
	2月	人物デッサン3人展	徳島そごう画廊
	8月	第22回徳島二紀展	県立近代美術館ギャラリー
	10月	第1回四国地区日本美術家連盟徳島県在住会員展	阿波銀プラザ
	10月	第61回記念二紀展	東京、国立新美術館

	10月	第22回国民文化祭上勝アートプロジェクト・協賛出品	上勝町
鎌田 邦宏	2月	人物デッサン3人展	徳島そごう画廊
	8月	第22回徳島二紀展	県立近代美術館ギャラリー
	10月	第61回記念二紀展	東京、国立新美術館
	10月	第1回四国地区日本美術家連盟徳島県在住会員展	阿波銀プラザ
	10月～11月	第22回国民文化祭上勝アートプロジェクト	
		里山の彩生関連出品	上勝町瀬津会館
上月 佳代	2月	人物デッサン3人展	徳島そごう画廊
	8月	第22回徳島二紀展	県立近代美術館ギャラリー
	10月	第1回四国地区日本美術家連盟徳島県在住会員展	阿波銀プラザ
	10月	第61回記念二紀展、同人賞受賞	東京、国立新美術館
	10月～11月	第22回国民文化祭野外彫刻展、入選模型展	県立二十一世紀館
	10月～11月	第22回国民文化祭上勝アートプロジェクト・協賛出品	上勝町
佐藤 隆	9月～11月	徳島彫刻集団45回記念野外彫刻展	徳島市中央公園
	10月	レイリア通り・渋野町に「0 Mai」(海へ)寄贈設置	徳島市
武田亜希子	8月	第22回徳島二紀展	県立近代美術館ギャラリー
	10月	第61回記念二紀展、奨励賞受賞	東京、国立新美術館
	10月～11月	第22回国民文化祭とくしま2007野外彫刻展	
		国民文化祭実行委員会会長賞受賞	徳島市中央公園
	10月～11月	第22回国民文化祭野外彫刻展マケット展：優秀作品	県立二十一世紀館
	10月～11月	第22回国民文化祭上勝アートプロジェクト	
		「NIKIG作品展」参加	上勝町
濱口 恵	4月	第57回モダンアート展(版画出品)	東京都美術館
	7月	マレーシア国立美術館収蔵作品記念展(版画寄贈)	マレーシア国立美術館
	9月～11月	徳島彫刻集団45回記念野外彫刻展	徳島市中央公園
	10月	第40回モダンアート徳島支部展	阿波銀プラザ
松永 勉	1月	第35回徳島市芸術祭美術展：特別出品	徳島市シビックセンター
	2月	富士ソフト総合ビルに作品「萌芽」5点設置	東京、秋葉原

	5月	ライオンズ府中中河原マークスフォートに 「風景の始まり」設置	東京・府中市	
	5月	井川町桜の森彫刻展、模型展	秋田市アトリオン	
	6月	宮崎国際現代彫刻展・空港展：招待出品	宮崎県宮崎空港	
	7月～8月	風の芸術展受賞作家作品展：招待出品	鹿児島県枕崎市	
	9月	第62回行動美術展：会員出品	東京、国立新美術館	
	9月～11月	徳島彫刻集団45回記念野外彫刻展	徳島市中央公園	
	10月	第62回行動美術展大阪巡回展：会員出品	大阪市立美術館	
東	光司	5月	ストーンミュージアム石の彫刻展2007	高松市庵治町
		10月	第40回モダンアート徳島支部展	阿波銀プラザ
		10月～11月	第22回国民文化祭野外彫刻展、模型展出品	県立二十一世紀館
長岡	強	3月	第83回白日展：会員出品	東京都美術館
		6月	第37回日彫展：審査員	東京、国立新美術館
		11月	第39回日展：出品委嘱	東京、国立新美術館
林	一美	4月	仏像彫刻展	ヨンデンプラザ徳島
		10月～11月	第22回国民文化祭美術展出品	県立二十一世紀館

# 美術工芸部

部会長 山上 馨

## 年間展望

◎第62回県美術展（平成19年10月3日～11日 徳島県郷土文化会館）

平成19年（2007年）第62回県美術展・美術工芸部門の応募点数は203点、出品者は148人であった。前回展に比べて応募点数が43点、応募者数で23名の減少となったが、これは、第22回国民文化祭・とくしま2007美術展の搬入が先行したためであろう。

審査は極めて厳正に各ジャンルからの賞候補30余点から入賞9点（特選2点・準特選4点・奨励賞3点）が選ばれ、入選112点と無審査出品11点を加え、総展示作品は132点となった。

今回の審査員は東京芸術大学教授・同大学美術館長の増村紀一郎先生にお願いした。審査の総評としては、「バラエティーに富んだ作品が並び、物を作る楽しさが感じられる作品がたくさんあった。審査は、素材の持つ美しさを素直に表現できているか、素材を生かすために日々の鍛錬の中で肉体で獲得した技術があるかどうかをポイントにした。

徳島新聞社長賞の吉田祐子「眺（ひかり）」（ガラス工芸）は、ガラスらしい透明感をうまく表現している。全体のバランスも取れ、造形的にも単純明快で、ガラスの特質を見事に引き出し非常に効果的だ。真ん中の球体がレンズのように周囲の景色を集める効果を持っていることで、動きも感じられる。上の部分にカットを入れることで美しが増し、下の部分のブルーとワインレッドの色彩も鮮やかだ。

特選の森明治「窯変条文大皿」（陶芸）は、陶芸作品の中でも確かな技術が見てとれる作品だった。ろくろを扱う技術もしっかりしている。シンプルだが存在感のある形で作為的なものを感じず、見ていてもすがすがしい。焼きしめの土の色が美しく、上薬もうまく効かせ、控えめな色合いもいい。大和心というべきか、新しい日本の様式美を感じさせる。

自分より上位に入賞した作品と、自分の作品をじっくりと比較してほしい。そうすればはっきりと違いがわかるはずで、それを創作活動のエネルギー源としてほしい。明日は今日よりも上手になろうという気持ちで取り組むことが大切だ。

焼き物や漆工芸といった地場産業的な工芸とは違って、自由な発想で作られた作品が多かったように思う。そうした点で、若い学生を指導している立場として学ぶところが多くあった。」と、貴重な御指導をいただいた。

今回展は出品者がいろいろな素材に果敢に挑戦し、それぞれに美術工芸の世界を広げようという姿勢が強く印象に残った作品展であった。増村先生には、今回はじめてでご

来駕いただいたが、審査を通して素材の生かし方・主題のとらえ方・技術を含めて表現への取り組み方等示唆に富むご助言をいただいた。先生の時宜にかなったご指導に深甚の謝意を表し、次回展の発展につなぎたいものである。

特選（特別賞）	吉田 祐子「暁」
特選	森 明治「窯変条文大皿」
準特選	小西 幸枝「故郷の海」
〃	玉木 隆子「蜂の巣編花籠」
〃	藤井 哲信「レースガラス四方皿「阿波の音色」」
〃	丸居 哲雄「注目を浴びる人」
奨励賞	村上 綾子「佇」
〃	谷口 武平「龍光花器」
〃	佐治 孝「赤い魚」

#### ◎第15回県放美展（平成19年5月2日～6日 徳島県郷土文化会館）

平成19年（2007年）第15回放美展・美術工芸部門は出品人数123名、出品点数182点の応募があった。過去最多の応募があった14回展（平成17年、139名・205点）に比べるといささかの遜色を免れないが、1年のブランクの影響であろう。

審査は一次審査で127点の入選を決め、その中から20点の賞候補作品を選抜、最終入賞作品10点（放美賞1点、四国放送開局55周年記念賞1点、優秀賞8点）を選んだ。展示は、放美賞1点、四国放送開局55周年記念賞1点、優秀賞8点、入選117点、無審査出品6点となり、総展示数は133点となった。

一般的な傾向として陶器が過半数を占め、新しく押し花が進出してきているようである。これは各種のカルチャーや講座の影響があるのであろう。一方伝統的な藍染め、金工、木工芸等が段々と減少しているのは誠に淋しい限りである。本格的に取り組む人材を育てたいものである。パッチワークやかずらの作品も数は少ないが、充実した作品に成長してきているのは心強い限りである。

放美賞、田村栄一郎「やすらぎ」（陶芸）は個性的な形で、釉薬の色調と大らかな形体がよく調和している。技術も高く、完成度の高い品格のある秀作である。

四国放送開局55周年記念賞、松原敦子「いぶき」（パッチワーク）は色数をおさえ、ダイナミックな構成で生地の特性を生かし、キルト効果をうまく利用した秀作である。パッチワークによる芸術性追求の一方向として高く評価したい。

優秀賞8点はそれぞれのジャンルで素材と深くかわり、その特性を生かし、感性と技術を調和させた見ごたえのある作品であった。更なる精進を期待したいものである。（審査員：七條猪三郎・松下慶一・多智花佐代子）

放美賞	田村栄一郎「やすらぎ」
四国放送開局55周年記念賞	松原 敦子「いぶき」
優秀賞	加藤 伴江「夏空に染めて」

- 〃 中西 達也「徳島杉、桎板貼りつづら絞様小物入れ」
- 〃 大貝 貞雄【花器「流」(ながれ)】
- 〃 吉田 陽子【象嵌焼漆壺「美男葛」】
- 〃 平岡英津子「水舞う」
- 〃 田村 純子「凜」
- 〃 松島 典子「浮・遊 (ふ・ゆう)」
- 〃 里見 正威「月光の渦潮」

## ◎第22回国民文化祭・とくしま2007美術展

(平成19年10月27日～11月4日 美術工芸：徳島県立博物館)

美術工芸部門の応募は全国から270点、出品者は206名であった。うち徳島県から164点、125名と1団体の応募があった。

審査会は9月20日県郷土文化会館3F展示室で審査員5名の合議で行われた。審査は厳正で終始作品・受付番号だけの審査となった。展示スペースの関係で展示可能な171点を入選として選出、賞候補を一室に集め入賞・佳作作品を決定した。

最終事務局(県担当職員)が出品作品一覧表で確認作業を行ったが、入賞8点中徳島県が7点(87.5%)、佳作34点中徳島県が23点(67.6%)、入選129点中徳島県が73点(56.6%)となった。

開催県という特殊事情もあったことと思うが、質・量共に県出品者の努力が高く評価された美術工芸展であったと思う。国民文化祭美術展を盛り上げて下さった出品者の方々に深甚な謝意を表すと共に、これを機会に本県美術工芸が更に発展することを祈念したいものである。

最後に中央からお迎えした審査員・中井貞次先生・竹内順一先生・島田文雄先生に心から御礼を申し上げ、審査員長中井貞次先生の講評を掲載して県美術工芸の明日への指標といたします。

### 審査員長講評 (中井 貞次)

現代のハイテク時代、情報過多による社会は、日常生活の中に必ずしも潤いをもたらしているとは言えないのではないのでしょうか。それは、私達の生活空間に画一的なものが氾濫しているからです。

価値観の多様化する今日、そこに求められるものは人の手を通じて作り出される個の産物、創り手の体温が感じられるものなのです。

そのような意味からも国民文化祭美術展の美術工芸部門を契機として、工芸に対する関心が昂まり、徳島に根差した固有の工芸が盛んになることを願って止みません。

先ず、全国各地より270点を越える応募作品があったことは、県を挙げてこの国民文化祭美術展の美術工芸展に対する取り組み、熱意の現れで大変喜ばしいことです。

鑑査から審査へ、すべて審査員全員による合議性のもとに1点1点、丁寧な選考が行われました。応募作品の中には1人で2点の出品者がありましたが、原則としてどちら

か1点に絞り、より多くの入選者を出すことにし、この展覧会を盛り上げるように努めました。

総じて陶磁と染織分野については応募点数も多く、それに比例して力作がありました。注目すべきはパッチワークの作品群で他府県では見られない活況ぶりでした。ただ心残りは、徳島と言えば伝統的にも藍染め作品の応募が多いのではないかと期待していたのですが、意外に少なかったことです。また、微笑ましかったのは、高校生グループの応募があり、作品の完成度よりも土に取り組む喜々とした触覚的な遊びが溢れ、明日への希望を感じました。

また、押し花の作品については、押し花を単に風景画のリアルな再現素材として使うのではなく、もっと創作的な表現素材として活かすことを心掛けてほしいと思います。

他の素材分野にも、技術的に熟練された優れた作品がありましたが、要は、その技術で何を作るのかという独自の創作性が最重要課題となることを忘れてはなりません。

文部科学大臣賞	「暁（染）」	四十宮年代（徳島県）
国民文化祭実行委員会会長賞	「層」	田村栄一郎（ 〇 ）
徳島県知事賞	「踊りの女神降臨」	丸居 哲雄（ 〇 ）
第22回国民文化祭徳島県実行委員会会長賞	「響きあう藍」	小栗加代子（ 〇 ）
徳島県議会議長賞	「雪道」	有内 則子（ 〇 ）
徳島県教育委員会教育長賞	「西端の世界」	松下 羊子（ 〇 ）
徳島県文化協会会長賞	「藍の記憶Ⅰ」	松谷 和子（静岡県）
徳島県美術家協会会長賞	「黒釉線文鉢」	南 郁代（徳島県）

## 会員消息

（県展・放美展は除く）

大貝 貞雄	・第35回徳島市芸術祭美術展（徳島新聞社賞）	1月	徳島市シビックセンター
	・第22回国民文化祭とくしま2007美術展（佳作）	10月	徳島県立博物館
	・第35回県手工芸展（奨励賞）	11月	阿波市立土成歴史館
大貝 寿子	・第35回徳島市芸術祭美術展（徳島市長賞）	1月	徳島市シビックセンター
	・ユニヴェール・デザール芸術世界	3月	フランス・東京（ユニヴェール・デザール）
	・第22回国民文化祭とくしま2007美術展（佳作）	10月	徳島県立博物館
太田 裕子	・第35回県手工芸展（賛助出品）	11月	阿波市立土成歴史館
	・横浜日仏芸術祭2007“創造者たちのエデン”	6月	横浜港大棧橋ホール
	・第46回日本現代工芸美術展	3月	東京都立美術館
越 由子	・平成19年度全国クラフト展（準特選）	9月	県郷土文化会館
	・第26回ふう布パッチワークキルト展	11月	徳島市シビックセンター
	・第46回日本現代工芸美術展	3月	東京都立美術館
多智花佐代子	・第39回日展	11月	国立新美術館
	・第45回現代工芸美術家協会四国会展	12月	高松・三越



九十九健二	・第78回第一美術展	5月	東京都立美術館
富田ちえ子	・染色すなご会作品展	4月	高松市牟礼町民俗資料館
永山昭一郎	・第31回作陶展	7月	徳島市シビックセンター
	・第22回国民文化祭とくしま2007美術展（佳作）	10月	徳島県立博物館
野村 裕子	・K Q S パッチワークキルト展	11月	徳島市シビックセンター
日浦 久代	・第36回仙台・徳島文化交流美術展	9月	県郷土文化会館
森 賢一	・第46回日本現代工芸美術展（本会員出品）	3月	東京都立美術館
	・第39回日展	11月	国立新美術館
	・第45回現代工芸美術家協会四国会展	12月	高松・三越
山田 和子	・第20回工芸美術四国会展（ミニアチュール賞）	5月	高松・三越
	・第39回日展	11月	国立新美術館
山本 和子	・第46回日本現代工芸美術展	3月	東京都立美術館
	・平成19年度全国現代クラフト展	9月	県郷土文化会館
	・第22回国民文化祭とくしま2007美術展	10月	徳島県立博物館
	・第22回国民文化祭とくしま2007藍フェスティバル	10月	藍住町武道館、他
	・第22回国民文化祭とくしま2007手づくり文化の創造	10月	阿波市土成農業者トレーニングセンター
	・第8回全国阿波藍染織作家協会展	10月	藍住町武道館
	・第45回現代工芸美術家協会四国会展	12月	高松・三越
吉田 陽子	・陶芸文化振興財団展	7月	国立新美術館
	・第98回徳島県女流美術家協会展	9月	県郷土文化会館
	・第36回徳島・仙台文化交流美術展	9月	県郷土文化会館
	・第22回国民文化祭とくしま2007美術展（佳作）	10月	徳島県立博物館
四十宮年代	・第35回徳島市芸術祭美術展（特別出品）	2月	徳島市シビックセンター
	・第42回中部染色展（無鑑査出品）	8月	愛知県芸術文化センター
	・第22回国民文化祭とくしま2007美術展（文部科学大臣賞）	10月	徳島県立博物館
	・第22回国民文化祭とくしま2007藍フェスティバル	10月	藍住町勤労女性センター
	・第22回国民文化祭とくしま2007手づくり文化の創造（阿波市長賞）	11月	阿波市土成農業者トレーニングセンター
	・日本マレーシア友好年2007国際芸術展 （クアラルンプール国際芸術祭最優秀大賞）	11月	クアラルンプール国際空港 メインターミナルビル
龍木 秀子	・第39回日展	11月	国立新美術館
綾野 昌子	・第22回国民文化祭とくしま2007美術展（佳作）	10月	徳島県立博物館
	・第39回日展	11月	国立新美術館
田村栄一郎	・第29回日本新工芸展	5月	国立新美術館
	・第22回国民文化祭とくしま2007美術展（国民文化祭実行委員会会長賞）	10月	徳島県立博物館
	・第39回日展	11月	国立新美術館
田村 佳代	・第22回国民文化祭とくしま2007美術展（佳作）	10月	徳島県立博物館

田村 純子	・ 第29回日本新工芸展（奨励賞）	5月	国立新美術館
	・ 第22回国民文化祭とくしま2007美術展（佳作）	10月	徳島県立博物館
	・ 第39回日展	11月	国立新美術館
矢野 款一	・ 日本工芸会正会員展（審査員出品）	5月	東京日本橋三越
	・ 抜苦阿羅漢展	5月	大阪帝国ホテルギャラリー-尾山
	・ 日本工芸会四国支部展	10月	高松・三越
	・ 煌・陶芸展	11月	徳島市シビックセンター
家形笑美子	・ 第22回国民文化祭とくしま2007美術展	10月	徳島県立博物館
小栗加代子	・ 東京国際キルトフェスティバル「仲間と作ったキルトの綴帳」出品と講演	1月	東京ドーム
	・ 第22回国民文化祭とくしま2007踊り部門ポスター（最優秀賞）	1月	徳島国文祭実行委員会
	・ 第46回日本現代工芸美術展	3月	東京都立美術館
	・ 第22回国民文化祭とくしま2007美術展 （第22回国民文化祭徳島県実行委員会会長賞）	10月	徳島県立博物館
	・ 海陽町奥浦地区だんじり幕・大幕・横幕完成	10月	奥浦だんじり建設委員会
橋 恵	・ 北島町指定無形文化財「阿波藍長板中形染」技術保持者認定	12月	北島町教育委員会
藤井 雅代	・ 第22回国民文化祭とくしま2007美術展（佳作）	10月	徳島県立博物館
松下 雄介	・ 日中青瓷（せいじ）交流団として中国表敬訪問	6月	湖南省・上海市
	・ 美術紀行第三巻「サン・ロータスの道」日本・東洋編共著出版	7月	万葉舎
丸居 哲雄	・ エナジー2007	10月	文化の森21世紀館
	・ 第22回国民文化祭とくしま2007美術展（徳島県知事賞）	10月	徳島県立博物館
	・ 上板町美術愛好会作品展	11月	上板町・技の館
	・ 上板町文化祭	11月	上板町・技の館
川真田 弘	・ 藍染講習会	9月	北海道茅部郡森町「緑の村」
	・ 藍染講習会	10月	北海道茅部郡森町「緑の村」
	・ 川真田弘藍型絵染展	10月	函館市ギャラリー-村岡
藤井 哲信	・ 第4回もてなしの工芸10人展	3月	徳島市シビックセンター
	・ 藤井哲信ガラス展	5月	大丸心斎橋店
	・ 全国手づくりガラス展	6月	石川県地場産業振興センター
	・ 3人のガラス作家の作品展	7月	掛川市アーテ・カーザー
	・ 2007グラスクラフトトリエンナーレ	8月	伊丹市立工芸センター
南 泰樹	・ 第35回県手工芸展（優秀賞）	10月	阿波市立土成歴史館
	・ 第22回国民文化祭とくしま2007美術展	10月	徳島県立博物館
南 郁代	・ 第35回県手工芸展（賛助出品）	10月	阿波市土成農業者トレーニングセンター
	・ 第22回国民文化祭とくしま2007美術展（徳島県美術家協会会長賞）	10月	徳島県立博物館
曾江 司	・ 第22回国民文化祭とくしま2007美術展	10月	徳島県立博物館

# 書 道 部

部 会 長 上 田 溪 水

## 年間展望

### ◎第62回県美術展（第2期10月13日～21日 県郷土文化会館）

今回の応募数は782点で、出品者は522人であった。審査員は樽本樹邨、東山一郎、辻本大雲の三先生で、審査評の要点は、漢字「大胆な動き、細やかな筆遣いがうかがわれる作品が多かったが、両方を兼ね備えたものは少なかった。古典を学習して個性が出るよう研鑽してほしい。」仮名「県展はその県の有力指導者の色が出る傾向があるが、多彩な作品が多かった。」近代詩文「全体的に技術レベルは高いが作風の共通しているのも見られた。さらに幅の広い表現に挑戦してほしい。」

### ◎第15回放美展（5月2日～6日 県郷土文化会館）

応募数186点、出品人数166名で、今回は記念賞も含めて入賞9点、入選102点と今年も厳選となった。

### ◎第22回国民文化祭とくしま2007（10月27～11月4日 郷土文化会館）

「おどる国文祭」の愛称で盛大に開催された。書部門は18都道府県から579点の応募があり、高木聖鶴審査員長、大井錦亭、中村伸夫先生及び勝瀬景流、上田溪水が審査を担当し、入賞8点、佳作91点、入選354が展示された。また県内選抜書家展も併催された。

文部科学大臣賞

川村春琴

国民文化祭実行委員会会長賞

森 光翔

第22回国民文化祭徳島県実行委員会会長賞

林 美雪

徳島県議会議長賞

山橋不二子

徳島県教育委員会教育長賞

高濱 涉

徳島県文化協会会長賞

青木東原

徳島県美術家協会会長賞

細川耀淹

## 会員の訃報

荒井天鶴氏が3月22日ご逝去されました。氏は県展初期より活躍され美協顧問とし、また本県書道界に大きな功績を残されました。享年92歳。心からご冥福をお祈り申し上げます。

◎社中展・個展等

○第7回光照会書展	県立近代美術館	1月19日～21日
○第3回桂和会書展	徳島市シビックセンター	2月2日～4日
○第27回書研社展	徳島市シビックセンター	2月10日～12日
○第41回清潮会書展	阿南市文化会館	3月2日～4日
○第1回虹光会書展	徳島市シビックセンター	3月2日～4日
○東弥生書作展	県立文学書道館	3月28日～4月1日
○第20回記念長玄書道展	郷土文化会館	4月6日～8日
○幽の会書展	徳島空港ビル	4月12日～5月13日
○荒井天鶴書作展	郷土文化会館	4月19～22日
○第9回澄光会書展	郷土文化会館	5月18日～20日
○第14回大耿会書展	徳島市シビックセンター	6月1日～3日
○第25回双愛会書展	徳島市シビックセンター	6月15日～17日
○第2回琴清会書展	徳島市シビックセンター	7月6日～8日
○松林会書展	阿波銀プラザ	7月20日～22日
○第2回徳島青澄翔和会書展	徳島市シビックセンター	7月27日～29日
○第9回墨友会書展	ヨンデンプラザ池田	7月27日～29日
○第34回双暢会書展	郷土文化会館	8月10日～12日
○第70回書芸院展（高岡晃祥・佐原和清とその仲間達）	郷土文化会館	8月30日～9月2日
○第37回直心会展	郷土文化会館	8月31日～9月2日
○第36回雪心会書展	郷土文化会館	9月7日～9日
○皆谷芳穂書展	徳島市シビックセンター	9月7日～9日
○宇山泰鳳小品展	貞光ゆうゆう館	9月12日～18日
○天羽弘堂白壽展	阿南市文化会館	9月28日～30日
○第12回尚真会書展	阿波銀プラザ	9月28日～30日
○書朋6人展	県立文学書道館	10月5日～7日
○第6回一心会書展	県立近代美術館	10月19日～21日
○第19回陸月書道会展	徳島市シビックセンター	10月24日～26日
○第13回六書会展	ヨンデンプラザ徳島	10月25日～28日
○向井京子三世代書展	脇町時代屋ギャラリー	10月27日～11月30日
○第30回泉心会書展	阿波銀プラザ	12月7日～9日
○第22回正録会書展	徳島市シビックセンター	12月7日～9日
○第4回五果会書展	県立文学書道館	12月7日～9日

## 個人消息

(県展・放美展・社中展は除く)

### 役員で出品した人、入賞者(平成19年1月から12月)順不同

- 第21回産経国際書会代表展(上野の森美術館 1/28~2/1)

第24回産経国際書展(東京都美術館 9/1~16)

専管理事 藤若美風

評議員 松本清香

- 第48回太玄会書展(東京都美術館 1/11~17)

第43回太玄会役員書展(セントラル美術館 5/8~13)

運営委員 春藤大耿

理事・実行委員 近藤静苑・田村昇鶴・富久鳴泉・中尾勝子

理事 中西甫子・大櫛一峰・下村清子・岡島順子

審査員 木村弘子・小出圭子・瀬藤豊子・西宇明美・西谷香峰・広島白鷺

吉田美重子・鈴木恵理・弘田長風・古郷弘子

特別賞 弘田長風

新人賞 田上洋香

推選 米本祥穂

特選 春藤真紀・山下栄祥

- 第61回日本書芸院 2月展(大阪市美術館 2/14~18)

4月展(大阪市美術館 4/10~15)

役員展(大阪国際会議場 5/1~6)

常務理事 勝瀬景流

参与 東南光・上田溪水

評議員 伊丹東龍

一科審査員 清水桂月・隅田英二・高田青蓮・長江頌石・能仁華瑤・矢部知子

山口華城・東 弥生・宇山泰鳳・河野真流・薄田玲泉

二科審査員 青木東原・阿部珠雪・伊勢春瓊・川村春琴・駒田水洗・藤村柳葉

宇山耿鶴・藤山真由里・松永翠月・横田典子・鳩成青嶂・福永美泉

福家美鵬・八木藍玉・沖田唐谷・谷 弘美・谷口清水・辻 紅雲

豊浦春光・藤山真由美・近藤聖邨・井上虹雨・亀石文苑・向井京子

森 光翔・上田輝芳・倉本景雨・長谷美峰・宮守崇流

史邑賞 薄田玲泉

大賞 鳩成青嶂・福永美泉・福家美鵬・八木藍玉・亀石文苑・向井京子

森 光翔

- 特別賞 片山芳明・熊代厚子・安原照代・若木聖章・赤川景舟・詫間勝陽  
竹田和代・中尾勝子・山本景琴
- 特選 東川佳扇・大平啓仙・金子白雲・高尾 泉・永岡光翠・中村春岳  
野口有香・丸岡泉石・伊藤景風・古郷弘舟・西谷香峰・松本景琴  
由利静舟・吉田新舟・吉田靖流
- 一科推薦賞 阿部博子・古谷和代・寺尾俊通・谷 玲琴・井上景玄・井上小百合  
高橋芳琴・藤本満里子・中村春岳
- 二科推薦賞 漆原実沙・勝浦光濙・田中子葉・中西瑤汀・柏原翠玉・宮西恵子  
向井境子・吉田亜矢・河見踏春・日下真宏・丸岡春暎
- 第43回創玄展（東京都美術館 3 / 7～12）
- 一科審査員 荒井彭仙・長原皋聖・玉城乾香・浜 佳香
- 二科審査員 永松春苑・芝原醒鶴・多田清芳
- 学生審査員 岩本志豪・大島溪石・坂本霄風・大西清葩・丸岡香貞
- 秀逸 幸田清尚・吉田和婉・朝三皋如・長原皋月・松岡皋玉・岡崎啓香  
木田史香・山口幽徑・岸 緑香・佐藤恵和・仁木志香・丸田恵風  
平岡幽琴
- 二科賞 桐生美風・森岡嗣雅子・庄野乾翔
- 準二科賞 定本宏美・和田祥功・玉城乾豪・中村暢香
- 毎日書道展新会員作家展（千代田アートサロン毎日 3 / 5～31）
- 会 員 中川観山
- 第56回圭星展（東京都美術館 3 / 7～12）
- 無鑑査 中川観山・中川一鳳
- 高橋竹村記念賞 中川一鳳
- 第30回かな書展（日本橋高島屋 5 / 9～14）
- 副理事長 藤若美風
- 正 会 員 松本清香・三浦富美代・尾田艶子・長谷美峰
- 第31回由源全国書展（マイドーム大阪 5 / 26～28）
- 第2回四国由源展（坂出市民美術館 10 / 19～21）
- 常任無鑑査 川村春琴
- 幹 事 丸岡春暎・中村春岳・谷 玲琴・土井和也
- 八尾市議会議長賞 土井和也
- 「モラエスを詠う」
- 県観光協会理事長賞 川村春琴

ポルトガル大使賞 丸岡春暎・中村春岳

○玄心会書展 (11月)

常任理事 辻 紅雲

○第35回日本の書展 (大阪国際会議場 5 / 31 ~ 6 / 3)

招待 東 南光・春藤大耿

秀 拔 川村春琴・玉城乾香・浜 佳香・多田清芳・武市鳴雲・能仁華瑤  
長江頌石

○第59回毎日書道展 (東京都美術館 7 / 8 ~ 16)

(国立新美術館 7 / 11 ~ 23)

(愛媛県立美術館 8 / 14 ~ 19)

名誉会員 故 荒井天鶴

審査会員 荒井彭仙

会 員 長原皐聖・永松春苑・玉城乾香・芝原醒鶴・浜 佳香・多田清芳

会 友 朝三皐如

秀 作 岩本志豪・長原皐月

佳 作 上原瑞香・仁木志香

○水穂書展 (大阪市美術館 8 / 22 ~ 26)

総 務 東 弥生

常任理事 宇山泰鳳・向井京子

○第24回読売書法展 (国立新美術館 8 / 24 ~ 9 / 2)

(サンメッセ香川 12 / 1 ~ 3)

常任理事 勝瀬景流

理 事 東 南光・伊丹東龍・張 美鶴・薄田玲泉・東 弥生

幹 事 上田溪水・近藤聖邨・清水桂月・春藤大耿・隅田英二・高田青蓮  
豊浦春光 長江頌石・新居藍州・能仁華瑤・東野秀恵・山口華城  
上田輝芳・宇山泰鳳・亀石文苑・河野真流・竹田和代・倉本景雨  
佐川菁流・長谷美峰・宮守崇流・向井京子・福永美泉・竹内虹舟  
辻 紅雲

評 議 員 井上虹雨・川村春琴・加村喜美子・駒田水洸・松永翠月・近藤俊流  
山本景琴・森 光翔

俊 英 賞 能仁華瑤・亀石文苑・河野真流

奨 励 賞 井上虹雨・山本景琴

特 選 河野多美・井上景玄・吉田靖流

秀 逸 馬居汀香・河野美鶴・野口有香・林 美雪・井上見流・鈴木恵理  
西野涌泉・阿部博子・内田麻紀・安原照代

○第33回創玄現代書展（セントラル美術館 10/30～11/4）

推 薦 作 家 浜 佳香

○第39回日展（国立新美術館 11/2～12/9）

会 員 勝瀬景流

入 選 伊丹東龍・辻 紅雲・南 溪石・米澤東籬・薄田玲泉・井上虹雨  
福永美泉・向井京子・竹田和代・東 南光・東 弥生・赤川景舟  
隅田英二

○第21回寒玉会展（大阪 11/6～12）

常 任 委 員 長谷美峰

○第47回環社展（大阪市美術館 11/27～12/2）

相 談 役 総 務 東 南光

相 談 役 上田溪水

参 事 春藤大耿

参 与 清水桂月・長江頌石・豊浦春光・松本深翠

常 任 理 事 馬居汀香・小西玉翠・駒田水洗・武市鳴雲・能仁華瑤

理 事 岡島朱伯・田上洋香・谷口清水・花本清香・弘田長風・松浦翠篁  
松永翠月・真淵直枝・八木藍玉

評 議 員 上田美智・片山芳明・河野美鶴・野口有香・春藤玉秀・伊藤景風  
河野美鶴

読 売 賞 横田典子

特 別 賞 北村浩子・河野多美・春藤真紀・西村美保・森本真由美・米木祥穂

優 秀 賞 園尾恵風・久米川理伯・高原智世・谷本真由美・中西瑤汀  
丸岡泉石・山下栄祥

特 選 恵美春陽・遠藤清子・岡部比登美・笠井仁美・佐野陽子・稲井華風  
福井珠光

佳 作 久保光瑤・久米香風・服部紫光・坂野祐煌・天羽陽舟

秀 逸 新見耿邨

獎 励 賞 井上加芳・村瀬芳泉

○第23回国際蘭亭筆会展（台湾民主記念館 12/2～14）

日 本 部 理 事 長 東 南光

国 際 理 事 富久鳴泉



常任理事 東 弥生・広島白鷺・能仁華瑤

○第29回日本書道学院展（東京都美術館 12／9～14）

客 員 勝瀬景流

審査員 薄田玲泉・河野真流・赤川景舟・井上虹雨・上田輝芳・倉本景雨

近藤俊流・佐川菁流・竹内虹舟・宮守崇流・森 光翔・山本景琴

準大賞 宮崎聖風・皆谷芳穂

○第12回正筆会書展（原田の森ギャラリー 12／12～16）

常務理事 亀石文苑

常任理事 加村喜美子・竹田和代

理事 阿部博子

梅花賞 藤井三樹子

# デザイン部

部会長 福井 章

## 年間展望

第22回国民文化祭が開かれ、国文祭美術展には美協7部門が参加し催された。また郷土文化会館の改築で1年間延期されていた放美展が再開された。平成19(2007)年を開催順に展望する。

### ◎第15回放美展 5月2日(水)～5月6日(日) 徳島県郷土文化会館

応募点数73(出品人数64)から45点が入選した。審査は美協、田中一郎、敷島のり子、澤口功が担当。放美賞は「警告」の安藤綾沙。四国放送開局55周年記念賞は「春の語り」の張麗媛。優秀賞は佐伯奏美、岡本愛美、安藤綾沙が受賞した。部会員では天羽宏美が入選。その他審査員出品に田中、敷島、澤口が、運営委員として坂本三千一、北島豊嗣、美協理事の福井章が出品し、計51点が展示された。

### ◎第62回徳島県美術展 第1期10月3日(水)～11日(木) 徳島県郷土文化会館

審査員に日本グラフィックデザイナー協会運営委員、三木健(大阪)氏を招いた。応募点数100(出品人数84)入選40点(入選率40%)。賞は特選2、準特選3、奨励賞3点。審査に入る前に基準となる指針(表現方法、メッセージ性、技術力、コミュニケーション力など)を出品者に明確に説明されたのは、実に新鮮であった。審査は比較的短時間で済んだが、内容の濃いものだった。特選・県美術協会会長賞に「I LOVE NATURE」の東早紀、特選に「ENERGY」天羽宏美(美協部会員)が選ばれた。準特選は佐伯奏美、斎藤志津子(部会員)、四宮光理、奨励賞は岩佐新太郎、四十宮隆志(部会員)、西林良枝(部会員)が受賞。その他入選には、部会員の北島豊嗣、西林良枝、天羽宏美、四十宮隆志(3点)が入った。特別出品として坂本三千一、福井章。招待作家の斎藤繁次、坂野美恵子、無鑑査の敷島のり子、澤口功の6点を加えて計46点が展示された。なお美術点のポスター、図録、チケットのデザインは田中一郎が担当した。

### ◎第22回国民文化祭・美術展 10月27日(土)～11月4日(日) 徳島県立近代美術館ギャラリー

美術展には県外から福田繁雄、中村誠、松永真の各氏を迎え、美協デザイン部から坂本三千一、坂野美恵子が参加し審査を担当した。国民文化祭徳島県実行委員会に坂本三千一、吉本實。美術展企画委員として福井章が協力、運営に携わった。応募作品は100点。奇しくも県美術展と同数となった。その中から入賞8、佳作14、入選50、計72点が

選ばれた。文部科学大臣賞には「815」四十宮隆志、国民文化祭実行委員会会長賞「I can, You can」田中一郎、徳島県知事賞「個展ポスターⅡ」生田典子、第22回国民文化祭徳島県実行委員会会長賞「LIFE」渡辺みつお、徳島県議会議長賞「しせい」斎藤繁次、徳島県教育委員会教育長賞「利休七則」木川隆志、徳島県文化協会会長賞「ONE～SMILE」西林良枝、徳島県美術家協会会長賞「叫び声」北島豊嗣が受賞した。主要8賞のうち6部門をデザイン部会員（四十宮、田中、生田、斎藤、西林、北島）が占める快挙となった。佳作に敷島のり子、吉本實、四十宮隆志、入選に天羽宏美、生田典子、斎藤繁次、斎藤志津子、斎藤剛、敷島のり子、田中一郎、西林良枝の部会員が入った。審査委員長の福田繁雄（日本グラフィックデザイナー協会会長）氏からは、講評で最大級の言葉をいただくことができた。「徳島県のクリエイティブのレベルの高さに感動させられた」と書かれている。県内のデザイナーとして、ありがたく嬉しく受けとめたい。残念なのは、県外からの応募が少なかった（17点）こと。前回開催の山口県でデザイン部門が無かったのが影響したのかも知れないが、広報にも問題がありはしなかったか。JAGDA徳島をはじめ、美術展にご協力くださったデザイナー各氏に感謝したい。

美術展のポスター、募集パンフ、図録などはコンペで選ばれた四十宮隆志がデザインワークを行った。

## ◎その他

国文祭美術展のため、毎年恒例の部会展は平成20（2008）年2月に先送りとなった。部会員の個展も多かった。坂野美恵子、敷島のり子、福井章、斎藤繁次、斎藤志津子、生田典子、西林良枝（3人展）四十宮隆志（'08.1）が、それぞれ作品展を持った。（県外審査員を除いて敬称略）

## 会員消息 （県展・放美展関係は除く）

### ■天羽 宏美

- 9月 第92回二科展準入選
- 第22回国民文化祭美術展デザイン部門入選

### ■生田 典子

- 8月 3人展（イルローザ鳴門店）
- 9月 第22回国民文化祭美術展デザイン部門徳島県知事賞
- 11月 二科会「ポストカードデザイン大賞」入選（大阪）

### ■坂野美恵子

- 1月 坂野美恵子 GRAPHIC DESIGN 展（cafeカサブランカ）

- 8月 第92回二科展デザイン部門会員出品（東京：国立新美術館）
- 9月 第22回国民文化祭美術展デザイン部門審査員

■齋藤 繁次

- 2月 サイトウ・シゲジ・イラスト展（ドクターエンドー徳島店）
- 11月 第22回国民文化祭美術展デザイン部門入賞

■齋藤志津子

- 9月 齋藤志津子イラスト展（ドクターエンドー徳島店）
- 11月 第22回国民文化祭美術展デザイン部門出品

■坂本三千一

- 1月 第22回国民文化祭実行委員会企画委員会（県庁）  
おどる国文祭、PR大使、テーマ三大ポスター選考会委員
- 3月 敷島のり子氏県芸術文化奨励賞授賞式（グランドパレス）  
第31回県文化協会チャリティフェア出品（四電プラザ）
- 6月 徳島県平和ポスター選考委員会（県庁）
- 9月 第22回国民文化祭美術展デザイン部門審査員
- 10月 第22回国民文化祭開会式（アスティとくしま）
- 11月 第22回国民文化祭デザインギャラリートーク（県立近代美術館）  
JAGDA会長（審査委員長福田繁雄氏）  
第22回国民文化祭美術展表彰式（大塚国際美術館）  
第22回国民文化祭閉会式（県郷文）
- 12月 第36回歳末チャリティ作品・色紙即売展（徳島そごう）

■澤口 功

- 2月 第35回徳島市芸術祭美術展審査出品（徳島市シビックセンター）
- 12月 第36回歳末チャリティ作品・色紙即売展（徳島そごう）

■敷島のり子

- 3月 徳島県芸術文化奨励賞受賞
- 4月 第8回「国際ポスター展 in はなはるフェスタ」を企画開催
- 7月 敷島のり子アート&ポスター展（阿波銀プラザ）
- 10月 第22回国民文化祭もっとみんなで参加事業準大賞  
野外国際ポスター展「デザインよ街へ出よ！」企画開催
- 11月 第22回国民文化祭美術展デザイン部門佳作入選

■田中 一郎

- 11月 第22回国民文化祭美術展デザイン部門  
国民文化祭実行委員会会長賞「I can, You can」  
入選「徳島の夏の思い出」  
第27回ヴォーカルグループ Sole コンサート  
ポスター、チラシ、チケット、プログラムをデザイン

■西林 良枝

- 8月 3人展開催（鳴門イルローザ）  
11月 第22回国民文化祭美術展デザイン部門  
徳島県文化協会会長賞受賞  
12月 “世紀のダ・ヴィンチを探せ” 国際アートトリエンナーレ入選

■福井 章

- ・徳島新聞朝刊「阿波路イラストぶらり旅」絵と小文（毎月1回連載）
  - ・とくしま“あい”ランド推進協議会情報誌「いのち輝く」イラストシリーズ（年3回連載）
  - ・徳島調停協会連合会会報「和と情理」イラストシリーズ（年2回連載）
  - ・'08徳島新聞正月号「開運！とくしま宝船」イラストシリーズ（37点制作）
- 1月～ 第22回国民文化祭徳島県実行委員会美術展企画委員  
9月 「徳島70景」福井章イラスト展（阿波銀プラザ）  
「こども県展」作品審査（徳島新聞社）  
10月 「阿波路イラストぶらり旅」出版（徳島出版KK）  
12月 第36回歳末チャリティ作品・色紙即売展（徳島そごう）

■吉本 實

- 1月～ 第22回国民文化祭・とくしま2007周知グッズ・ツールデザイン企画制作  
プロジェクトチームメンバー（第22回国文祭県実行委員会）  
11月 第22回国民文化祭美術展デザイン部門佳作受賞  
徳島花基金事業：'08版徳島花へんろポスター・カレンダーデザイン制作  
（県観光協会）

■四十宮隆志

- 3月 「メルボルン日本芸術祭21世紀日本美術の現実」  
グラフィックデザイン「FACE～Meibourune 2007～」

21世紀日本文化振興芸術賞受賞

レセプション&開会式参加（オーストラリア メルボルン）

- 6月 「JAGDA 日本グラフィックデザイナー協会定期総会」  
東京ミッドタウン事務局移転パーティ参加（東京ミッドタウン）  
「横浜日仏芸術祭2007創造者たちのエデン」  
グラフィックデザイン「FACE～Meibourune 2007～」  
日仏美の造形特別賞受賞、開会式参加（横浜港大棧橋ホール）
- 7月 「第4回日伊芸術驚異と美の饗宴」  
グラフィックデザイン「FACE～夏の華Ⅲ～〈VERONA 2007〉」  
日伊芸術使徒賞受賞  
レセプション&開会式参加（イタリア ペローナ）
- 8月 「平和の壁芸術賞ピースウォール広島2007」  
グラフィックデザイン「LAW No.9～戦ってはならない」  
大賞（一席）受賞（広島市基町クレド）
- 11月 第22回国民文化祭美術展デザイン部門  
「815」文部科学大臣賞受賞  
「PRAY PEACE」佳作受賞  
表彰式&レセプション参加（大塚国際美術館）  
「Graphic Design in JAPAN 2008」（JAGDA年鑑）  
グラフィックデザイン3点出品
- 12月 「世紀のダヴィンチを探せ！国際アートトリエンナーレ2007」  
グラフィックデザイン「核の傘」、「FACE～夏の華Ⅳ～」  
2点入選、表彰式&レセプション参加（大阪芸術大学）  
「GINNZA de アート」  
グラフィックデザイン「LAW No.9～戦ってはならない」  
出品&レセプション参加（東京銀座ギャラリー／アートスペース5）

■斎藤 剛

- ・「ニューランドスケイプ」シリーズ（27年間継続製作中）

## 第62回県展審査評

### [日本画]

審査員 能 島 和 明  
(日展評議員)

作風・題材ともに多彩な作品が並んだ。いずれも作者の一生懸命描いた気持ちが伝わってくるが、うまく見せようという作為や気負いが表れた作品が少しあったようだ。絵は、自分の気持ちを映す鏡のようなものである。作者独自の視点やそのものから受けた感動が表れた作品こそが、見る人を感動させる。

その点で、県知事賞の石動智子「黙」は、切り株を見たときの感動がありのままに描かれていて素晴らしい。色使いで木の乾いた感じがよく表現されており、曲線の使い方がスケールの大きさを感じさせる。技法を前面に押し出すのではなく、無心に自分の感動を表現しようとしている点が良い。切り株に作者自身の人生が重ねて描かれた印象を受けた。

特選の岡谷あかね「草叢（そうそう）千の風」は、墨の濃淡の中に、草原の色、空気、においが感じられる作品。キャンバスに糊かろうのようなもので草を描いた上に墨をのせ、乾燥させた後に取り除いている。墨の濃淡に浮かび上がる草のシルエットから、風が吹きわたる草原の広がりが見えてくる。

二作品とも、物を見る視点と感動を画布に定着させようとする姿勢が表れており、好感をもった。他方、技術的に型にはまった作品が見られた。技法が先走ると絵で伝えたいことがぼやけてしまう。気負わず、事物から受けた感動を素直に表現してほしい。一つの技法にこだわるのではなく、多彩な作品に触れることで感性を磨き、さまざまな描き方を追求してほしい。

### [洋 画]

審査員 島 田 鮎 子  
(国画会会員)

徳島の風土にはぐくまれた感性がどのような作品を生み出すのか、楽しみにしていた。想像以上にレベルが高く、丁寧な審査を心掛けてもなお、落選作を決めるのはしのびなかった。特選作は偶然にも、すべて女性の作品となったが、全体として描かれたテーマがはっきりとしており、良かったと思う。

県議会議長賞の三木洋子「エスカルゴと静物」は、どこか中世の時代を感じさせ、古典

的な香りが漂う油絵らしい作品。こげ茶色を有効に使い、静ひつな空気が絵全体から感じられる。配置もよく、細々とした物が、きちんと枠に収まっている。しっとりとした質感も素晴らしい。

特選の横石和子「樹脈」は、点描画で表現された木の根っこの造形がユニーク。見上げた空を背景に、天に向かって伸びていく木の躍動感がよく出ている。構図も奇抜で、入賞作の中では最も現代的な作品といえよう。

特選の野口暁子「蓮根畑の秋Ⅰ」は、荒々しいタッチが印象的な作品。岩の輪郭や境界線など黒い線を効果的に使っている。ところどころに用いられた赤色が、収穫を終えた畑の荒涼としたさまを際立たせている。

絵は展覧会のために描くのではなく、自身の高揚のために続けてほしい。気負わず、楽しく描くことが大切。多種多様な表現がある中でいかに個性を出していくか。その答えは、表現したいことを素直に、才をてらわず、じっくりと腰を据えて描くこと。それが上達の近道にもなると思う。

## [写 真]

審 査 員 英 伸 三  
(日本写真家協会会員)

バラエティーに富んだ内容で実力のある作品が多かった。同じモチーフでも一点ずつ表現方法が違い、丁寧に仕上げられている。全体的に、写真に対するまなざしがストレートで明るく、徳島の風土が現れているとの印象を持った。

県教育長賞の松田みゆき「真夏の夜」は、マンションのベランダに出て花火を見ている光景を見事なタイミングでとらえた。ガラス窓に花火が大写しに反射する場面を、望遠レンズで撮影している。色彩的にはモノトーンだが、人々が心から夏の夜を楽しんでいる様子が、シルエットから読み取れる。

特選の山田勝二「阿波踊りでの交流」(二枚組)は、徳島の祭りが中国の田舎町でも受け入れられた情景を美しく記録した。一輪車で穀物を運ぶ農民、大勢の見物人に囲まれて踊る姿…。大陸の澄んだ空気が伝わってくるようだ。

特選の清水宗保「リハーサル」は、競技場の明るさや健康的な雰囲気画面にあふれる。空色のフィールドがプールのようにも見え、選手が水の上を走っているような錯覚も。タイミングも構図的なバランスもよく、気持ちがいい。

特選の野口佳一「群」は、中東の女性たちが危険を感じてうずくまっているような緊張感が漂う。漁村の浮きを覆う布が、そんな連想をさせ、悪夢を予感をさせる。深い黒の中



のいろいろなトーンを、光線の中でうまく表現した。

写真には、社会性が重要だ。現場に足を運び、面白いテーマは何かよく考えてシャッターチャンスを待つ。一枚の写真からさまざまな要素が読み取れる作品づくりを心掛けてほしい。

## [彫 刻]

審査員 中 垣 克 久  
(新制作協会会員)

全体に出品数は少なかったものの、空間の取り方が巧みな作品や、素材のよさを生かした作品がみられ、バラエティーに富んでいた。技術的に稚拙な作品もあったが、創作の熱意のあとがみられ、努力しだいで伸びる可能性を感じさせた。

徳島市長賞の上月佳代「far away」は、体の表面を鋭角でそぎ落としたり、切ったりしたモデリング処理が独特で印象的だ。首と手足との角度やバランスもよく、先の見えない混とんとした中、苦悩や不安感を抱えながらも生きる人間の姿をとらえ、強い個性が感じられる。

準特選の武田亜希子「共振の月」は、曲面を効果的に見せることで、素材に使っている硬い鉄を非常に柔らかく表現することに成功している。無機質なものに命を宿らせることによって、周りの空間を含め不思議な動きとリズムを与えている高度な作品だ。

同じく準特選の高丸公相「惑う星」は、アクリルの中に、貝のようにも見える物体を閉じ込めた作品。不安定感がある中に、ファンタスティックなストーリーをつむぎだしているのが魅力で、あまり使われない素材で可能性に挑戦する意欲を感じさせる。

彫刻の才能は、もともとあるものではなく、継続することによって生まれてくるものだと思う。継続の原動力となるのは、彫刻が好きで打ち込めるかどうかで、そこに創意工夫も生まれてくる。今回は選に漏れた人も、熱意を持って継続してもらうことで、より完成度の高い作品を目指してほしい。

## [美術工芸]

審査員 増 村 紀一郎  
(東京芸大美術館長)

バラエティーに富んだ作品が並び、物を作る楽しさが感じられる作品がたくさんあった。審査は、素材の持つ美しさを素直に表現できているか、素材を生かすために日々の鍛錬の

中で肉体で獲得した技術があるかどうかをポイントにした。

徳島新聞社長賞の吉田祐子「眺（ひかり）」（ガラス工芸）は、ガラスらしい透明感をうまく表現している。全体のバランスも取れ、造形的にも単純明快で、ガラスの特質を見事に引き出し非常に効果的だ。真ん中の球体がレンズのように周囲の景色を集める効果を持っていることで、動きも感じられる。上の部分にカットを入れることで美しさが増し、下の部分のブルーとワインレッドの色彩も鮮やかだ。

特選の森明治「窯変条文大皿」（陶芸）は、陶芸作品の中でも確かな技術が見てとれる作品だった。ろくろを扱う技術もしっかりしている。シンプルだが存在感のある形で作為的なものを感じず、見ていてとてもすがすがしい。焼きしめの土の色が美しく、上薬もうまく効かせ、控えめな色合いもいい。大和心というべきか、新しい日本の様式美を感じさせる。

自分よりも上位に入賞した作品と、自分の作品をじっくりと比較してほしい。そうすればはっきりと違いが分かるはずで、それを創作活動のエネルギー源としてほしい。明日は今日よりも上手になろうと気持ちで取り組むことが大切だ。

焼き物や漆工芸といった地場産業的な工芸とは違って、自由な発想で作られた作品が多かったように思う。そうした点で、若い学生を指導している立場として学ぶところが多くあった。

## [書 道]

### ●漢字・篆刻

審査員 樽 本 樹 邨  
(日展評議員)

審査では、さまざまな書体の作品を特選に選んでいる。行草書に比べると、篆書、隸書は数少なかったのが残念だった。ジャンルに幅ができると、より充実するのではないか。

特選の稲井由香「蘇東坡詞」は細字でありながら、スケールの大きさが伝わってくる傑作だ。それは一つ一つの文字が適度な空間を含んでいる上、墨を蓄えた字を全体にバランス良くちりばめているからで、センスの良さを感じた。

河見忠信「王維詩」は大小、長短の文字を見事に組み合わせている。最終行をさわやかな字粒の小さい字で統一したことが、前の四行を引き立てている感じを受けた。両端の余白をほぼ均一に仕上げている部分などから、練度の高さがうかがえる。

米澤司子「杜甫詩」は中国の書家・金冬心（金農）を熱心に研究している。この書風は、

それぞれの文字の書き出しが力強く、終盤に力を抜いて自然な感じに収める字体が特徴だ。読める範囲内でうまく字をつぶしており、行間と字間も申し分ない。

渴筆がさえる真鍋千代子の漢詩は六行書きで、リズム感がある。印象的なのは四行目の「春」。筆圧が変化に富み、線も鋭い。作者はここに精魂を込めたはずだ。「春」と、その後続く文字の濃淡で遠近感を出すなど工夫している。

篆刻は真鍋一美「饗以嘉肴」が奨励賞になった。一本一本の線が躍動的で、四文字がうまく紙面に収まっている。

毛筆に関しては大胆な動き、細かな筆遣いがうかがえる作品は多かった。しかし、両方を兼ね備えた作品が少なかったように感じる。古典をしっかりと学習して自分の顔、つまり個性が作品に出るよう研さんを積んでほしい。

## ● 仮 名

審 査 員 東 山 一 郎  
(日展評議員)

全体として、バラエティーに富んだ作品が多く、楽しく拝見した。経験上、県展の出展作には、その県の有力な指導者の色が如実に現れる傾向があるが、多彩な作品が多く、切磋琢磨されている様子がうかがえた。

特選の井内光子「高村光太郎の歌」は、研ぎ澄まされた印象の格調高い作品。縦形式三行の構成。筆の腰をしっかりと使って書かれた書体も見事だ。線が洗練されている。潤筆と渴筆のバランスが絶妙で、立体感を生み出している。日ごろの鍛錬がなければ、できないことだ。

同じく特選の宮守とみ「西行の歌」は、紙の「黄土色」と墨の「黒」のコントラストをうまく使うことに成功した作品。この点に尽きる。対比した色がハーモニーを奏でている。実に素晴らしい。字体も大小の変化が有効に用いられており、高く評価した。

特選二作品に共通することは、中心部に墨の盛り上がり巧みに作られ、造形美が目を引く点。盛り上がりを作れば、見た者の目に迫力を与えられる。山の高さも、深い谷があるからこそ際立つ。山そのものだけでは目立たないのと同じ。選定に当たっては、特にテーマを決めているわけではない。虚心坦懐（たんかい）にピンと来たものを選ぶ。言い換えれば、すべての出展作に可能性はある。

落選したから作品が悪かったというわけではない。ほかとの比較の中で優劣をつけなければならない。その中で、落とさざるをえなかった。地道に精進することが肝要だと思う。

## ●近代詩文

審査員 辻 元 大 雲  
(毎日書道会評議員)

入賞作品はいずれも、技術力や構成力がしっかりしているだけではなく、書き手の息遣いや顔が見えるような、個性がにじみ出たものを選んだ。

四国放送社長賞の高瀬善郎「吉野弘の詩」は、文字の大小や墨の潤濁などのバランスのよさから、高い技術力を感じさせる。淡々と書き上げているが、全体の構成にまとまりがあり、明るい作品に仕上がっている。線がさわやかにさえているからこそ余白の白が映える。見ている者を安心させるような穏やかな包容力を感じる。

特選の田淵元博「鷹羽狩行（たかはしゅぎょう）の句」は、生き生きとした文字のリズムが魅力的な作品。深みのある線質や文字の造形のおおらかさは、おそらく漢字の表現の錬成によるものだろう。造形感覚の広さを感じさせ、味わいのある作品に仕上がっている。

全体的に技術レベルが非常に高かったが、作風が共通しているものが見られた。冒険的な作品や幅の広い表現に挑戦してほしい。

前衛部門では、ベテランの作品に魅力的なものが多かった。入賞作二点は、いずれも表現意図がしっかり伝わってくる独創的な作品。紙と墨、書く人の呼吸が見事に調和している。

準特選の梶川加奈「慶」は、紙面いっぱいにデフォルメされた文字が広がる。躍動感のある線に、エネルギーを感じる。

奨励賞の中川博雅「臣」は、中央部の主張と、それを縁取るような細くにじみのある線のコントラストがさえる作品。スケールの大きさが素晴らしい。

前衛は、文字を再構築して、書き手が世界観をつくっていくことが重要だ。先入観にとられず、線や墨色、造形をよく考えて創作してほしい。

## [デザイン]

審査員 三木 健  
(グラフィックデザイナー)

入賞審査は、自分らしい表現ができているか、明確な形のメッセージを伝えられているか、表現に対する技術力があるかなどを重視した。入選審査には、丁寧な仕事をしているかなど作り手の熱意や誠意が感じられる作品を選んだ。

県美術家協会賞の東早紀「I LOVE NATURE」は、少女の髪をつるの植物で描き、耳や口元に花を咲かせたインパクトのある作品だ。

人の表情をつくる顔の一部を植物で表現することで「自然を愛する」というメッセージが強く伝わってくる。顔をアニメふうに仕上げ、タイポグラフィ（文字デザイン）を「ゆるい文字」にしたことで、見る人が独特の世界観に親しみやすく入っていくのに成功している。

特選の天羽宏美「ENERGY」は、細い輪郭で描いた小さなたくさんの鳥で一本の木を表現した。第一印象では見た感じが弱いイメージだったが、よく見ると非常に独創的でクリエイティブ。緑が多く命をはぐくんでいるとのテーマ性も伝わってくる。木の上の太陽の描き方など未熟な点もあるが、作者の個性への期待度を込めて選んだ。

コンピューターグラフィックを安易に使った作品が多い昨今。出品作品は、特別賞などにみられるように自分の目で見て、自分の言葉で語り、第三者に思いを伝えたいと感じられる作品が多かった。デザインは作品にいかにかに人から人に伝播（でんぱ）できるコミュニケーションの力があるかが問われる。表現方法もさまざま、出品者には、さらなる表現の工夫に切磋琢磨してほしい。

平成19年度

## 第62回徳島県美術展（県展）公募規定

区分	部門	日本画	洋画	写真	彫刻	美術工芸	書道	デザイン
搬入日		9月23日	9月22日	9月30日	9月23日	9月23日	9月28日	9月30日
搬入先		徳島県郷土文化会館3F 展示場						
審査日		9月23日	9月23日	9月30日	9月23日	9月23日	9月29日	9月30日
審査員		能島和明	島田鮎子	英伸三	中垣克久	増村紀一郎	樽本樹一郎 東辻元大	郵郎雲 三木健
出品料		協会員 1点目 3,500円		その他の方 4,500円		2点目からはすべて 1,500円		
出品制限・大きさ・仕上げ		<ul style="list-style-type: none"> <li>未公開作品に限る</li> <li>点数は制限なし</li> <li>小・中学校在学者は出品できない</li> <li>72.7cm×50.0cm(額縁を除いて)以上でタテ、ヨコ190cm(額縁を含む)以内(ガラス・アクリル不可)</li> <li>吊り紐</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同左</li> <li>20号から60号まで(水彩は20号以上、版画は10号以上とする)</li> <li>額</li> <li>吊り紐</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同左</li> <li>組・単写真とも画面サイズ、半切以上(カラーは印画に限る)全倍まで</li> <li>無鑑査以上は画面サイズ半切以上、全倍までで単写真に限る</li> <li>パネル張り(組写真は1パネル(90×180cm以内)に全作品をレイアウトしたもの又は全作品を固定したもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同左</li> <li>高さ2m×幅1.5m×奥行1.5m重量200kg以内</li> <li>材料は自由、展示可能なものに限る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同左</li> <li>大きさ制限なし(ただし、平面作品はタテ1.8×ヨコ1.5m以内)</li> <li>木・竹・金工・陶磁・漆・染色・織物・人形・ガラス等</li> <li>展示できる用具をつける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同左</li> <li>半切又は全紙横<math>\frac{1}{2}</math>以上、仕上がり面積が1.47㎡(16平方尺)以内、縦・横自由</li> <li>卷子本・帖(40×300cm以内)</li> <li>篆刻は印影(タテ39cm×ヨコ30cm以内)で額装に限る(例)</li> <li>61cm(2尺)×242cm(8尺)枠張</li> <li>79cm(2.6尺)×181cm(6尺)枠張</li> <li>91cm(3尺)×161cm(5.3尺)枠張</li> <li>121cm(4尺)×121cm(4尺)枠張</li> <li>半切・全紙<math>\frac{1}{2}</math>・聯落まで額装</li> <li>アクリル入りでもよい</li> <li>無鑑査以上は半切以内</li> <li>部門は漢字(篆刻)・仮名・近代詩文・前衛とする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同左</li> <li>B1パネル横728×縦1,030ミリ</li> <li>厚さ5~75ミリ程度</li> <li>重さ5kg以内</li> <li>課題は自由(実在の商品名・会社名等は除く)</li> <li>法的規制に触れないこと</li> <li>吊り紐</li> </ul>
入賞		特選 2点 準特選 3点 奨励賞 3点 入選 規定数	特選 3点 準特選 6点 奨励賞 5点 入選 規定数	特選 4点 準特選 9点 奨励賞 8点 入選 規定数	特選 1点 準特選 2点 奨励賞 2点 入選 規定数	特選 2点 準特選 4点 奨励賞 3点 入選 規定数	特選 8点 準特選 14点 奨励賞 13点 入選 規定数	特選 2点 準特選 3点 奨励賞 3点 入選 規定数
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>落選作品は審査終了後、各部門で決められた日時までに搬出すること。</li> <li>展示作品は第一期は10月11日(木)、第二期は10月21日(日)の午後5時から午後6時までに搬出すること。</li> <li>所定の期日までに搬出しない場合は主催者において処分する。</li> </ul>						

第 62 回 県 美 術 展

特別・招待・無鑑査・賛助出品者名

☆ 日 本 画

(特別出品)	西 野 和 男		
(招 待)	中 川 健	岡 英 彦	土 方 るみ子
	土 井 洋 子		
(無 鑑 査)	反 田 卓	坂 容 子	中 西 芳 雄
	日 浦 猛 史		
(賛助出品)	長 谷 壽		

☆ 洋 画

(特別出品)	佐 野 比呂志	梶 田 務	
(招 待)	清 水 巫 悞	楠 瀬 等	露 口 敏 幸
	長 尾 弘 久		
(賛助出品)	岡 多美子	柏 木 雅 雄	河 田 安 市
	黒 崎 志 郎	後藤田 仁 一	松 川 寛
	岡 田 守	中 辻 奈美枝	

☆ 写 真

(特別出品)	西 條 征 二	櫛 淵 魏	
(招 待)	増 田 清 次	井 上 光 雄	木 田 英 之
	勝 西 雅 夫	笹 田 敏 雄	三 好 和 圭 祐
	上 野 照 文	森 賢 一 久	橋 本 井 賢 謙
	安 長 剛 彦	前 浦 芳 晴	荒 井 井 謙 吉
	林 敏 彦 吉	多 田 晴 光 章	古 増 田 越 正 文
	中 野 建 正	井 藤 和 健 司	船 越 崎 英 昭
(無 鑑 査)	柳 本 完 治 典	大 関 口 つとむ 孝	
	堀 中 川 定 典	佐 治	

☆ 彫 刻

(特別出品)	河 崎 良 行		
(招 待)	佐 藤 隆 勉	井 下 俊 作	鎌 田 邦 宏
	松 永 勉 人		
(無 鑑 査)	居 上 真 人		
(賛助出品)	長 岡 強		

## ☆ 美術工芸

(特別出品)	山 上	馨					
(招待)	高 橋	勇	七 條	猪三郎	多智花	佐代子	
	高 下	介	松 下	慶 一	森	賢 一	
	橋	惠	犬 伏	綯			
(無鑑査)	斎 藤	和 彦					
(賛助出品)	中 川	存					

## ☆ 書 道

(特別出品)	新 居 藍 州	上 田 溪 水				
(招待)	宮 井 青 雨	長 原 田 原 聖	西 南 龍			
	成 尾 莊 秀	原 田 田 霄 月	芝 原 醒 鶴			
	前 川 古 舟	清 水 桂 月	美 馬 幾 美 賀			
	春 藤 大 耿	中 谷 史 子	長 谷 美 好 峰			
	勝 瀬 景 流	川 上 虹 泉	三 間 島 子 鷺			
	近 藤 靜 苑	日 下 溪 翠	岡 山 口 順 華			
	荒 井 彭 仙	竹 田 和 鳴	中 尾 勝 春			
	藤 若 美 風	武 市 久 鳴	永 松 佳 苑			
	佐 藤 小 園	富 坂 本 本 香	浜 田 仁 清 華			
	島 田 英 乾 二	坂 本 本 田 玲 泉	多 田 仁 華 泰			
	隅 城 乾 香	薄 三 浦 富 美 代	能 宇 山			
	高 田 青 蓮					
	亀 石 文 苑					
(賛助出品)	東 南 光					
(遺作)	荒 井 天 鶴					

## ☆ デザイン

(特別出品)	福 井 章	坂 本 三千一
(招待)	斎 藤 繁 次	坂 野 美恵子
(無鑑査)	敷 島 のり子	沢 口 功



## あ と が き

平成19年度は県郷土文化会館が耐震工事も完了し、第15回放美展、第62回県美術展も従来のかたちで開催することができました。

ただ県美術展の場合は、第22回国民文化祭・とくしま2007美術展がほとんど同じ時期に開催されたこともあり、出品点数・出品人数等で多少の減少が見られました。

しかし、国民文化祭が徳島で開催されたのを契機として、さらに拡充発展をさせていくこともできるものと考えていますので、今後の皆様方のご協力をお願いいたしたいと思えます。

例年のように各部会長から一年間の各部の動向や会員の消息をいただきましたのでごらん下さい。毎回申し上げていますが、会員の方で掲載したい情報がありましたら、各部会長とご相談くださるようお願いいたします。

今年の表紙はデザイン部の担当ということで四十宮隆志さんにデザインしていただきました。

最後になりましたが、会員の皆様にはご健康に留意されまして、ますます創作活動に励まれますようご祈念いたします。どうぞ美術家協会の充実発展のためにもお力ぞえ下さるようお願いいたします。

平成20年 3月

県美術家協会事務局

## 美 術 年 報 2008年

---

平成20年 3月28日 印刷

平成20年 3月31日 発行

編集者 清 水 博

装幀者 四十宮 隆 志

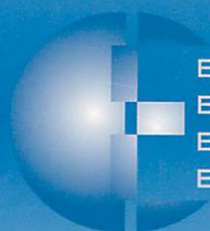
発行人 佐 野 比呂志

印刷所 原田印刷出版株式会社

発行所 徳 島 県 美 術 家 協 会

(徳島市名東町1丁目246 清水方)

---



EARTH  
ECOLOGY  
ECONOMY  
ENERGY